

年 報

(平成22年度)

(2 0 1 0)

山梨県立大学看護学部

目 次

はしがき	1
1 本学の概要	2
1) 設立の趣旨・沿革	2
2) 施設・設備	3
3) 組織	4
①組織図 ②領域別教員数 ③教員名簿	
2 学生の動向	8
1) 学生数 2) 奨学金貸与状況 3) 入試状況 4) 健康管理状況 5) 卒業生進路状況 6) 国家試験合格状況	
3 教育概要	12
1) 教育理念 2) 教育課程 3) 質の高い大学教育推進プロジェクト	
4 研究活動	16
1) 専任教員の研究課題 2) 文部科学省科学研究費補助金 3) 共同研究 4) 海外派遣研修	
5 地域活動	22
1) 教員の社会的活動 2) 公開講座実施状況 3) 県民コミュニティカレッジ 4) 図書館の利用状況	
6 研究業績一覧	32
7 大学院看護学研究科	44
1) 教育目的	44
2) 教育課程	45
①専門分野 ②開講予定科目及び専門分野履修モデル ③授業科目と担当教員	
3) 大学院生の動向	52
①学生数 ②奨学金貸与状況 ③入試状況 ④健康管理状況 ⑤科目等履修生履修状況 ⑥CNS（専門看護師）合格状況 ⑦修士論文審査	
4) 共同研究	54
8 看護実践開発研究センター	55

はしがき

本学の理念と目的は、地域に開かれた大学であり、地域的な視点と地球的な視点や個別的視点と総合的な視点を兼ね備え、学問的探求、豊かな人間性と専門職業人としての能力を備えた人材育成、地域社会に対する実践的貢献を通し、豊かで生き生きとした社会の発展に寄与することにあります。

この理念に基づき、平成 22 年 4 月に看護学部附属看護実践開発研究センターを立ち上げ、その活動のひとつとして、平成 23 年 6 月から緩和ケア認定看護師教育課程をスタートさせております。

エビデンスに裏付けられた看護学の教育・研究、社会貢献を通した実践活動を積み重ねていくなかで看護学をより発展させていく地道な活動が、まさに今大学に求められていると考えております。

そのような観点から、看護実践開発研究センターという拠点を持つことで、大学での基礎教育を修了した現場で活躍する看護職の仲間とともに、専門性を追求し、さらに研究を積み上げる仕組みを大学全体の組織として取り組んでいけたらと考えております。本学の利点を最大限に活かした教育・研究や社会貢献等の評価は、社会の中でこれからその真価が問われていくと考えております。

このたび平成 22 年度の山梨県立大学看護学部年報には、平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月までの学生の動向、教育活動、研究活動、地域活動などが研究分野ごと（領域ごと）に記載されております。また、看護学研究科の動向も合わせて掲載されております。

本大学は、平成 22 年 4 月より法人化となりました。今まで以上に教育や研究・地域貢献等を通し、広く社会に大学としての責務を果たしていくことが求められております。そのような意味からも、大学の教育活動や研究活動などを学内外に公表し、社会に還元していくことは重要であると考えます。本年報が、本学の自己点検評価の資料として、また大学のさらなる発展のためにご活用いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、本年報の発刊のために多大な努力をいただきました小林たつ子紀要委員長をはじめとする委員の先生方、並びに関係職員の皆様に深く感謝いたします。

平成 24 年 3 月

山梨県立大学看護学部
学部長 佐藤悦子

1 本学の概要

1) 設立の趣旨・沿革

山梨県立大学看護学部は、昭和28年に3年課程の看護婦学校養成所として開設された山梨県立高等看護学院を発端として、今日まで、看護実践に、看護教育・管理に、保健福祉行政など、多岐にわたり、県内外を問わず、多くの卒業生を輩出している。

この間、平成7年4月には、高度化・専門化する医療や在宅ケアなど拡大しつつある看護の場に対応し、併せて、看護の専門知識・技術に加えて高度な判断力、応用能力など資質の高い看護職者の育成を図るため、加えて、看護分野へ進学を希望する者に対して魅力ある看護高等教育機関を提供する場として、山梨県立看護短期大学が新設された。

さらには、看護をめぐる諸情勢の変化、社会の看護ニーズの多様化に応えるため、平成10年4月には、質の高い看護専門職業人の育成を目指して、短期大学部を併設した山梨県立看護大学を開設している。

現在は、平成17年4月に、人間や社会に対する学問的探求、豊かな人間性と専門的職業能力を備えた人材の育成、地域社会に対する実践的貢献を通して、豊かで生き生きとした社会の発展に寄与することを目指して、県立看護大学と県立女子短期大学が統合し、山梨県立大学として開学され、平成22年4月には、公立大学法人山梨県立大学として、新たな一步を踏み出している。

また、同年4月、より質の高い看護実践を目指す実践者のための教育・研究を行うセンターとして山梨県看護実践開発研究センターが創設された。

【沿革】

昭和28年	4月	山梨県立高等看護学院の開校
昭和30年	4月	山梨県立高等看護学院に保健婦学科を併設
平成6年	4月	山梨県立高等看護学院の保健婦学科を保健学科に名称変更
平成7年	4月	山梨県立看護短期大学の開学
平成10年	3月	山梨県立高等看護学院の看護学科廃止
平成10年	4月	山梨県立看護大学の開学
		山梨県立看護短期大学を、山梨県立看護大学短期大学部に名称変更
平成13年	3月	山梨県立高等看護学院閉校、同学院保健婦学科の廃止
平成14年	4月	山梨県立看護大学大学院の開設
平成15年	4月	新県立大学設置準備室の設置
平成16年	11月	文部科学大臣による山梨県立大学（国際政策学部、人間福祉学部、看護学部）、及び山梨県立大学大学院（看護学研究科）の設置認可
平成17年	4月	山梨県立大学及び山梨県立大学大学院開学
		山梨県立看護大学学生募集停止（3年次編入を除く）
		山梨県立看護大学大学院学生募集停止
平成18年	3月	山梨県立看護大学大学院閉学
平成20年	3月	山梨県立看護大学、山梨県立大学短期大学部閉学
平成21年	3月	山梨県立大学第一期生卒業
平成22年	4月	設置者を公立大学法人山梨県立大学に変更
		看護実践開発研究センターを設置

2) 施設・設備

校地・建物等（平成23年3月現在）

(1) 校地面積 43,752.98 m²

・校舎敷地面積	19,940.40 m ²
・運動場（池田）	6,600.80 m ²

(2) 建物 16,303.71 m²

・管理及び講義棟（RC3F）	2,586.60 m ²
・実習及び講義棟（RC4F）	5,570.00 m ²
・図書館及び研究棟（RC2F）	4,213.15 m ²
・体育館（S1F一部2F）	1,139.00 m ²
・大学院棟（RC5F）	2,611.14 m ²
・新実習棟（RC2F）	1,938.75 m ²
・その他	525.49 m ²

図書の状態（平成23年3月）

(1) 蔵書状況

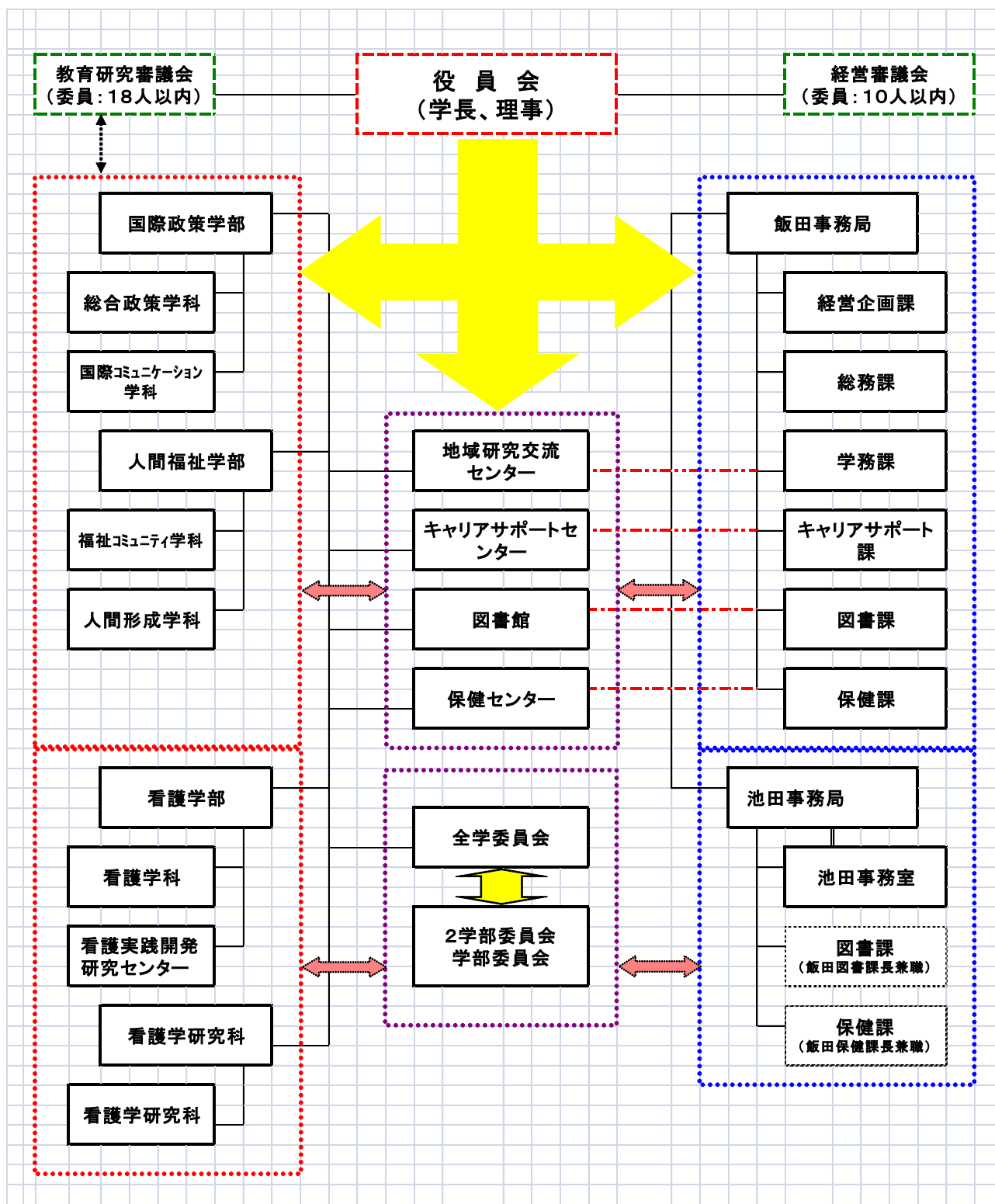
①蔵書数 75,842 冊 ②学術雑誌 1,472 種 ③視聴覚教材 2,073 点

(2) 施設状況

①施設面積 989.46 m² ②閲覧席 122 席 ③視聴覚設備 14 セット

3) 組織

①組織図



② 領域別教員数

(平成 22 年度)

領 域	計	教授	准教授	講師	助教	助手
看 護 関 連 科 学	5	2	1	1	1	
基 礎 看 護 学	6	1	1	1	1	2
地 域 看 護 学	8	2	1	3	2	
精 神 看 護 学	4	1	1	1	1	
母 性 看 護 学	6	2	2	1	1	
小 児 看 護 学	4	1	1	2		
成 人 看 護 学	9	3	1	1	4	
老 年 看 護 学	4	1	1		2	
看 護 管 理 学	2	1		1		
看 護 教 育 学	2		1	1		
外 国 語	2		2			
合 計	52	14	12	12	12	2

③教員名簿（平成 22 年度）

(役 職 者)

学 長 伊 藤 洋
看護学部長 佐 藤 悦 子
研 究 科 長 松 下 由美子
図 書 館 長 斉 藤 秀 子

【看護学部】

(看護関連科学)

教 授 林 正 健 二 教 授 文 珠 紀久野
准教授 百 々 雅 子 講 師 本 間 隆 之
助 教 山 北 満 哉

(基礎看護学)

教 授 小 林 たつ子 准教授 五 味 千 帆
講 師 相 羽 利 昭 助 教 中 橋 淳 子
助 手 立 石 ゆ か 助 手 井 口 久美子

(地域看護学)

教 授 佐 藤 悦 子
准教授 井 出 成 美
講 師 泉 宗 美 恵
助 教 須 田 由 紀

教 授 村 松 照 美
講 師 依 田 純 子
講 師 望 月 宗一郎
助 教 小 尾 栄 子

(精神看護学)

教 授 清 水 恵 子
講 師 野 澤 由 美

准教授 山 田 光 子
助 手 渥 美 一 恵

(母性看護学)

教 授 石 田 貞 代
准教授 滝 沢 美津子
講 師 平 田 良 江

教 授 伏 見 正 江
准教授 名 取 初 美
助 教 萩 原 結 花

(小児看護学)

教 授 井 上 みゆき
講 師 大久保 ひろ美

准教授 田 淵 和 子
講 師 茂手木 明 美

(成人看護学)

教 授 松 下 由美子
教 授 梶 原 睦 子
講 師 城戸口 親 史
助 教 井 川 由 貴
助 教 高 岸 弘 美

教 授 遠 藤 みどり
准教授 渡 辺 かづみ
助 教 小 林 美 雪
助 教 山 本 奈 央

(老年看護学)

教 授 流 石 ゆり子
助 教 森 田 祐 代

准教授 渡 邊 裕 子
助 教 小 山 尚 美

(看護管理学)

教 授 田 中 彰 子

講 師 真 下 綾 子

(看護教育学)

准教授 吉 田 文 子

講 師 吉 澤 千登勢

(外国語)

准教授 杉 田 由 仁

准教授 長 坂 香 織

【大学院看護学研究科】

教授(兼) 松下 由美子
 教授(兼) 文 珠 紀久野
 教授 小田切 陽 一
 教授(兼) 遠 藤 みどり
 教授(兼) 村 松 照 美
 教授(兼) 佐 藤 悦 子
 教授(兼) 梶 原 睦 子

教授(兼) 林 正 健 二
 教授(兼) 流 石 ゆり子
 教授(兼) 小 林 たつ子
 教授(兼) 伏 見 正 江
 教授(兼) 石 田 貞 代
 教授(兼) 田 中 彰 子

准教授(兼) 百 々 雅 子
 准教授(兼) 渡 辺 かづみ
 准教授(兼) 吉 田 文 子

准教授(兼) 滝 沢 美津子
 准教授(兼) 渡 邊 裕 子

講 師(兼) 依 田 純 子
 講 師(兼) 吉 澤 千登勢
 講 師(兼) 真 下 綾 子
 講 師(兼) 本 間 隆 之

講 師(兼) 城戸口 親 史
 講 師(兼) 泉 宗 美 恵
 講 師(兼) 望 月 宗一郎

助 教(兼) 小 林 美 雪

助 教(兼) 小 山 尚 美

【看護実践開発研究センター】

センター長(兼) 田 中 彰 子
 センター構成員(兼) 看護学部全教員

2 学生の動向

1) 学生数

区分 入学年度	入 学	異 動 状 況		
		退 学	休 学	留 年
22 年度	1 0 6 (4)	1	4	6

※ () 内編入生

※ 休学者は現数

2) 奨学金貸与状況

区分 入学年度	日 本 学 生 支 援 機 構		山 梨 県 修学資金	そ の 他 市 町 村 病 院 等	計
	第 一 種	第 二 種			
22 年度	1 4	2 5	1 7		5 6

3) 入試状況

年 度	区 分		募集定員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	合格者 倍 率
22	特別選抜	推薦	4 5	5 3	5 3	3 4	3 4	1.56
		地域		1 3	1 3	1 1	1 1	1.18
		社会人		8	8	4	4	2.00
	特別選抜 計		4 5	7 4	7 4	4 9	4 9	1.51
	一般選抜	前期	5 0	3 1 7	2 8 8	5 4	4 8	5.33
		後期	5	2 7 5	1 5 5	5	5	31.00
	一般選抜 計		5 5	5 9 2	4 4 3	5 9	5 3	7.51
	3 年次編入学		5	1 1	1 1	8	4	1.38
	合 計		1 0 5	6 7 7	5 2 8	1 1 6	1 0 6	4.70

4) 健康管理状況

① 健康診断

	対象者	受診者	受診率	要精検者	要精検者
22 年度	4 0 6	4 0 6	100.0%	1 7	4.2%

② ツベルクリン検査

		受診者	陽性		陰性	
22 年度	1 回目	1 0 6	8 4	79.2%	2 2	20.8%
	2 回目	6 7	6 0	89.6%	7	10.4%

5) 卒業生進路状況

			22 年度
進 学	大 学 院		1
	そ の 他		2
	小 計		3 (2.9%)
就 職	看 護 師	県 内	3 4
		県 外	4 8
	保 健 師	県 内	3
		県 外	4
	助 産 師	県 内	5
		県 外	1
	養 護 教 諭	県 内	0
		県 外	2
	そ の 他		2
	小 計		9 9 (96.1%)
未 定			1 (1.0%)
合 計			1 0 3 (100.0%)

6) 国家試験合格状況

保健師

	受験者数	合格者数	合格率
22 年度	1 0 3 (8)	9 9 (3)	96.1%

※ ()は既卒者で外数。合格率には含まない。

助産師

	受験者数	合格者数	合格率
22 年度	7 (1)	7 (1)	100.0%

※ ()は既卒者で外数。合格率には含まない。

看護師

	受験者数	合格者数	合格率
22 年度	9 9 (1)	9 8 (0)	99.0%

※ ()は既卒者で外数。合格率には含まない。

3 教育概要

1) 教育の理念

看護学部においては、人間や社会を看護学的に探究する能力と、看護の対象への「科学的知」と「哲学・倫理的知」とをもって看護実践に貢献できる能力を啓発します。さらに、専門的職業人としての豊かな人間性の育成をします。

教育の目標

- ① 学問的探究心を持ち、看護学の発展に貢献できる看護実践者を育成します。
- ② 倫理的視点を科学的思考により、自己の考えや行動を決定し発展させることができる高い資質を持った看護実践者を育成します。
- ③ 保健・医療・福祉のチームの一員として協働し、指導者となる看護実践者を育成します。
- ④ 社会の動向や人々の関心を察知し、医療・看護を取り巻く状況を変革できる基礎的能力を養います。
- ⑤ 看護の対象となる、個人や家族、集団、地域社会について、多角的にとらえ実践できる能力を育てます。

2) 教育課程（看護学部看護学科専門科目）

授業科目の名称			単位数		履修方法及び修了要件
			必修	選択	
人間存在領域	実践支持科目	解剖生理学	2		必修 25 単位を含めて、28 単位以上を修得すること。
		※人間の遺伝学 (*)	1		
		病原微生物学	2		
		臨床栄養学	2		
		※救急法		1	
		※人間工学		1	
		性のヘルスプロモーション (*)		1	
		※看護心理学	2		
		※人間関係論Ⅰ	2		
		※人間関係論Ⅱ		2	
		※リラクゼーション		1	
		※いのちの社会学	2		
		※生活健康科学	2		
		社会福祉学総論	1		
		保健福祉行政学	3		
		公衆衛生学	2		
		疫学	2		
		保健統計学	2		
		※災害支援		1	
		※国際協力		1	
実践領域	実践基礎科目	病態治療学	2		必修 81 単位を含めて、83 単位以上を修得すること。
		治療学各論Ⅰ	2		
		治療学各論Ⅱ	2		
		補完・代替医療		1	
		精神保健論	2		
		薬理学概論	1		
		臨床薬理学	1		
		看護学概論	2		
		看護理論	1		
		基礎看護技術論Ⅰ	1		
		基礎看護技術論Ⅱ	1		
		ヘルスアセスメント基礎論	1		
		看護過程展開論	1		
	実践応用科目	人間発達援助論	1		
		ヘルスアセスメント実践論	1		
		実践基礎看護技術Ⅰ	1		
		実践基礎看護技術Ⅱ	1		
		実践基礎看護技術Ⅲ	1		
		小児看護学Ⅰ	1		
		小児看護学Ⅱ	1		
		母性看護学Ⅰ	1		
		母性看護学Ⅱ	1		
		成人・老年臨床看護学Ⅰ	2		
		成人・老年臨床看護学Ⅱ	2		
		老年看護学	2		
		精神看護学	2		
		リハビリテーション看護論	1		
		感染看護学		1	
		がん看護学		1	
		クリティカルケア看護論		1	
		看護導入実習	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2		

授業科目の名称			単位数		履修方法及び修了要件
			必修	選択	
実践領域		小児看護学実習Ⅰ	1		
		小児看護学実習Ⅱ	1		
		母性看護学実習	2		
		成人・老年臨床看護学実習Ⅰ	3		
		成人・老年臨床看護学実習Ⅱ	3		
		成人・老年療養支援実習	1		
		老年看護学実習	2		
		精神看護学実習Ⅰ	1		
		精神看護学実習Ⅱ	1		
	実践統合科目	公衆衛生看護学概論	2		
		地域保健活動論Ⅰ	3		
		地域保健活動論Ⅱ	2		
		学校保健論	2		
		産業保健論	1		
		公衆衛生看護学実習	4		
		看護管理学	2		
		看護教育学	1		
		家族看護学	1		
		在宅看護概論	1		
		在宅看護活動論	2		
		在宅看護論実習	2		
		専門職連携演習	1		
		看護実践総合演習	1		
		看護統合実習	2		
	助産課程科目	助産学概論（*）		1	
		周産期治療学（*）		1	
		助産新生児医療論（*）		1	
		助産診断技術学Ⅰ（*）		2	
		助産診断技術学Ⅱ（*）		4	
		助産地域活動論（*）		1	
		助産管理学（*）		1	
		助産学実習（*）		5	
		助産継続援助論実習（*）		4	
研究領域	文献購読セミナー	1			
	研究概論	1			
	看護研究セミナー	1			
哲学・倫理領域	※ケアのジェンダー学(*)		1		
	※生命倫理		1		
	看護倫理学	1			
合 計			110 単位	38 単位	

卒業要件

全学共通科目（16 単位以上）と看護学部看護学科の科目（115 単位以上）とを合計して 131 単位以上となること。

この場合において、※印の科目にあつては、12 単位以上修得しなければならない。

備考

助産師国家試験を受けようとする者は、(*)の科目の単位を修得しなければならない。

3) 質の高い大学教育推進プロジェクト

平成 20 年度 採択 テーマ「学祭統合型専門職連携教育推進プロジェクト」

GP とは「Good Practice」の頭文字を取ったもので、文部科学省は大学における学生教育の質の向上を目指す個性・特色ある優れた取り組みを選び、その取り組みをサポートしている。本取り組みは、平成 20 年度、488 大学等から 939 件の申請があり「質の高い大学教育推進プログラム」の分野で 148 件の取り組みが選定されたうちのひとつである。平成 20 年度より 3 年間の補助を頂き実施している。

(担当教員) 執行部：

統括責任者	看護学部	教授	佐藤悦子
統括責任者補佐	人間福祉学部	准教授	神山裕美
	看護学部	准教授	井出成美
		講師	吉澤千登勢
	人間福祉学部	教授	下村幸人
		准教授	柳田正明
	GP 室(非常勤)	教授	小野興子

サポート教員：

看護学部	教授	清水恵子	教授	田中彰子
	講師	泉宗美恵	講師	望月宗一郎
	助教	須田由紀	助教	中橋淳子
	助教	山本奈央	助教	森田祐代
人間福祉学部	教授	山田千明	助教	伊藤健次

GP 室事務： 三井知波留 平形満美子 松橋昌代

4 研究活動

1) 専任教員の研究課題 2010年度

氏名	職位	研究テーマ
(看護関連科学) 林正 健二	教授	1. 在宅における終末期医療 2. 看護教育における医学的知識の教授方法
文珠 紀久野	教授	1. 戦乱による子どもの心的外傷に関する調査研究 -東ティモールにおける孤児及び戦乱被害者の実態調査 2. 心理療法における Therapist の変化成長過程に関する研究 -Discourse Analysis Approach からの Therapist の発語行為の分析- 3. 広汎性発達障害児を育てている親の心理状況に関する研究 4. 「人間関係トレーニング」におけるファシリテーションに関する研究
小田切 陽一	教授	1. Age-Period-Cohort 分析によるわが国の自殺動向の解析 2. 学童期の体力・運動能力に関する世代分析 3. 小核形成におけるゲノムの不安定性誘導に関する研究
百々 雅子	准教授	1. 家族の社会学的研究 2. ケア職を中心としたジェンダーの研究 3. 医療社会学の研究 4. リラクセーションの実践的研究
本間 隆之	講師	1. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV・STD 予防対策とその介入効果に関する研究」(分担研究者)「コミュニティ活動に還元するための活動効果評価手法の探索」 2. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「インターネット利用層への行動科学的 HIV 予防介入とモニタリングに関する研究」(研究協力者) 3. 文部科学省科学研究費補助金「STD 患者動向の把握と HIV・STD 予防対策立案のための社会疫学的研究」(研究代表者) 4. 忍野村次世代育成支援に関する調査研究
山北 満哉	助教	1. 学童期の体力・運動能力に関する世代分析 2. 思春期の骨強度獲得に関する研究
(基礎看護学) 小林 たつ子	教授	1. 足浴が高齢者の夜間頻尿・夜間多尿の改善に及ぼす影響 2. 看護職員の腰痛予防のための体操実施に関する検討 3. 看護過程展開のアセスメントに関する看護師の思考過程に関する検討 4. 看護技術による身体反応や効果に関するエビデンスの検討
五味 千帆	准教授	1. 睡眠を促す看護技術について 2. 看護技術の効果的な演習方法について
相羽 利昭	講師	1. 看護技術の倫理に関する教育方法の研究 2. ケアリングの哲学的省察
中橋 淳子	助教	1. 看護基礎教育における看護過程の教育に関する研究 2. 看護師のがん性疼痛コントロールにおける実践と要因に関する研究
立石 ゆか	助手	
井口 久美子	助手	

氏名	職位	研究テーマ
(地域看護学) 佐藤 悦子	教授	1. 在宅ケアシステムに関する研究 2. 在宅療養を支援するための継続看護に関する研究 3. 専門職連携 (IPE・IPW) に関する研究
村松 照美	教授	1. 市町村保健師の行う地域診断に関する研究 2. 保健行動に関する研究 3. 養護教諭の健康相談スキル向上のためのプログラム開発, 平成 22 年度文部科学省研究振興局科学研究費, 基盤研究 (C) 分担研究
井出 成美	准教授	1. 高齢者のエンパワメントおよび介護予防に関する研究 2. 専門職連携教育に関する研究 3. 保健師の保健指導技術に関する研究
依田 純子	講師	1. 認知症高齢者等を介護する家族への地域住民サポーターによる支援の有効性 2. 認知症の人を介護する家族の健康に関する実態調査
泉宗 美恵	講師	1. 在宅療養者の医療ケアを行う家族の介護ストレスに及ぼす介護環境の影響 2. 認知症の人を介護する家族への地域住民サポーターによる支援 3. 継続看護における看護職間の連携の実態に関する調査
望月 宗一郎	講師	1. 地域包括支援センター職員のストレス対処に焦点を当てた現任教育プログラムの開発, 若手研究 (B) 平成 21～23 年度文部科学省研究振興局科学研究費
須田 由紀	助教	1. 乳幼児のアレルギー性疾患および感染症罹患に関わる母子の要因について～母乳中のTGF- β 濃度に焦点をあてて～ 2. 継続看護における看護職間の連携の実態に関する調査
小尾 栄子	助教	1. 広汎性発達障害児を育てている家族への支援 2. 山梨県内在住の定住外国人および訪県外国人の保健支援に関する研究 3. 学校保健、学校健康相談活動に関すること 4. 忍野村との連携協定に関すること (母子保健支援)
(精神看護学) 清水 恵子	教授	1. 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究 2. 統合失調症患者のメタボリックシンドローム予防・改善に関する研究
山田 光子	准教授	1. 暴力や威嚇状態にある患者への看護介入に関する研究 2. 統合失調症患者のセルフスティグマが自尊感情に与える影響
野澤 由美	講師	1. 精神科薬物療法を受ける患者の服薬アドヒアランスを高める看護に関する研究
渥美 一恵	助手	1. 「当事者参加授業の教育成果」に関する研究 2. 精神科看護記録の改善に向けた記録監査の有効性と今後の課題
(母性看護) 石田 貞代	教授	1. 女性のライフサイクル各期の健康支援 2. 次世代の健康を担う女性の葉酸摂取強化に向けた食育ガイドラインの構築 (科学研究費補助金、基盤研究 (C) 研究)
伏見 正江	教授	1. 女性のヘルスエンパワーメント教育プログラム開発 ～思春期のヘルスプロモーションに関する実証研究～ 2. 性と生殖における看護学教授法 3. 女性の健康とジェンダー

氏名	職位	研究テーマ
滝沢 美津子	准教授	4. 地域と協働する性と生殖のヘルスプロモーション研究 1. abstinenceの性教育カリキュラム編成に関する研究 2. アメリカにおける profession としての助産師の実践と歩みの歴史的意義
名取 初美	准教授	1. 妊娠経過における骨盤底筋力の変化ー正常妊婦と子宮頸管無力症妊婦の比較ー（平成 20 - 22 年度科学研究費補助金（基盤（C）） 2. ハイリスク妊婦のケアに関する研究
平田 良江	講師	1. 月経に伴う不定愁訴に補完代替医療が与える効果 2. 妊娠経過における骨盤底筋力の変化 正常妊婦と子宮頸管無力症妊婦の比較（科学研究費補助・共同研究者）
萩原 結花	助教	1. 妊娠期における出産・育児準備への効果的援助に関する研究 2. 女性のヘルスプロモーションに関する研究
(小児看護学) 井上 みゆき	教授	1. 新生児の生命維持治療をめぐる意思決定 2. 新生児医療における緩和ケア
田淵 和子	准教授	1. 子ども虐待の予防と対策 2. 母親の育児不安軽減への支援 3. 里親とその家族への育児支援
大久保 ひろ美	講師	1. 乳幼児期に起こりやすい症状と家庭看護の実態 2. 小児看護技術習得に向けた学生に対する看護師の指導と認識
茂手木 明美	講師	1. 小児期の生活習慣と健康問題・健康教育 2. 乳幼児期の子どもをもつ家族への育児支援
(成人看護学) 松下 由美子	教授	1. 看護師のキャリア・プラトーに関する研究 2. 糖尿病腎症女性患者の食事療法実行の意欲に関連する要因 3. 医療従事者の快適職場感に関する調査研究
遠藤 みどり	教授	1. 術後疼痛管理に関する研究 2. 発達障害の可能性のある看護学生に関する研究
梶原 睦子	教授	1. ストーマとリハビリテーション 2. 消化器ストーマ保有者のにおい不安
渡辺 かづみ	准教授	1. 看護師の臨床判断 2. クリティカルケア領域の実習における学生の学び
城戸口 親史	講師	1. 看護職者の職業感染予防に関する研究
小林 美雪	助教	1. 文部科学省科学研究費補助金「ワーク・ライフ・バランス（WLB）を考慮した潜在看護職の雇用形態のモデル化と検証」（研究分担者） 2. 文部科学省科学研究費補助金「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業における調整看護師の専門性に関する研究」（研究協力者） 3. 山梨県立大学看護学部共同研究費助成「安全確認行為を強化した注射業務マニュアルの臨床における検証」 4. 終末期医療の在り方に関する意識調査 5. 中小規模医療機関の医療安全確保のための研修カリキュラムの作成と活用、評価
山本 奈央	助教	1. 外科系病棟における看護師への術後疼痛管理教育の効果に関する研究, 科学研究費補助金 基盤研究C（研究分担者）

氏名	職位	研究テーマ
高岸 弘美	助教	1. 化学療法を受けている患者におけるクライオセラピーの効果に関する研究 2. 日本学術振興会による事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」の採択
井川 由貴	助教	1. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C「外科系病棟における看護師への術後疼痛管理教育の効果に関する研究」(研究分担者)
(老年看護学) 流石 ゆり子	教授	1. 認知症高齢者の地域支援に関する研究 2. 意思決定の困難な高齢者の終末期のケアに関する研究 3. 高齢者と若者の世代間交流に関する研究 4. 閉じこもり高齢者への支援方法に関する介入研究
渡邊 裕子	准教授	1. 高齢者と若者の世代間交流と高齢者の社会貢献に関する研究 2. 高齢者の若者イメージに関する研究 3. 認知症高齢者の適応と看護に関する研究 4. 看護学生のヘルスアセスメント実践能力向上に向けた教育の取り組み
森田 祐代	助教	1. 訪問看護サービスを利用する高齢者のニーズ、在宅を支える要因に関する研究 2. 要介護高齢者の退院調整に関する研究 3. 看護学生のヘルスアセスメント実践能力向上に向けた教育の取り組み
小山 尚美	助教	1. 高齢者の若者イメージに関する研究 2. 認知症高齢者の地域支援に関する研究
(看護管理学) 田中 彰子	教授	1. 看護師のキャリア・プラトー現象とその影響要因に関する研究 2. 看護必要度の効果的な教材と研修方法の開発に関する研究
真下 綾子	講師	1. 先駆的人員配置マネジメントシステムを導入した医療機関の実態調査および人員配置マネジメントシステムの概念モデルの構築 「独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金事業 若手スタートアップ事業」
(看護教育学) 吉田 文子	准教授	1. 看護技術力向上にむけた教育方法の研究 2. 看護師のキャリア・プラトー現象に関する研究
吉澤 千登勢	講師	1. 患者の権利とナーシング・アドボカシーに関する研究 2. 専門職連携教育(IPE)における教育プログラムの開発・実践・評価に関する研究 3. 元ハンセン病患者と社会的ネットワークの構築に関する研究
(外国語) 杉田 由仁	准教授	1. タスクに基づくライティングテストの開発とその有用性に関する総合的評価 (科学研究費補助金: 課題番号 22520572) 2. 日本人英語学習者の書く力を伸ばす指導: 連結詞の学習効果 3. 学習者間のリーディング能力差に配慮したレスンプラン
長坂 香織	准教授	1. 山梨県における在住外国人と医療・福祉: 1) 母子保健 2) 医療・福祉の現場の多文化共生 2. 看護学生への異文化間教育 (多文化共生教育) 3. 市民団体、大学、行政の連携と学生の学び

2) 文部科学省科学研究費補助金

(単位：千円)

年度	区 分	研究の名称	研究代表者	補助額
22	基盤研究 (C)	①タスクに基づくライティングテストの開発とその有用性に関する総合的評価	准教授 杉田由仁	1,200
	若手研究 (B)	②STD患者動向の把握とHIV・STD予防対策立案ための社会疫学的研究	講師 本間隆之	900

3) 共同研究

年度	研究テーマ	共同研究代表
22	①より安全性の高いと考えられる注射業務マニュアルの臨床における検証	助教 小林 美雪 他
	②学術交流協定にむけた高麗大学校看護大学との国際交流のあり方について ～高麗大学校看護大学の看護教育プログラムおよび教員の研究テーマの実態調査～	教授 井上 みゆき 他
	③認知症高齢者を介護する家族への地域住民ピアサポーターによる支援の意味 ―主介護者の介護意識に関する質的検討―	講師 泉宗 美恵 他
	④看護大学におけるヘルスアセスメント実践能力の育成・向上に向けた教育の取り組みと成果	准教授 渡邊 かづみ 他

4) 海外派遣研修

年度	研修員氏名	研修期間 研 修 先	研修課題
22	教授 文珠 紀久野	平成 22 年 6 月～7 月 ケニア	ケニア国内紛争中に性的暴力の被害者となった女性の被害状況の実態調査（科研費）
	教授 文珠 紀久野	平成 22 年 9 月～10 月 東ティモール	東ティモールにおける孤児の実態調査及び戦乱後の心的外傷を負った子どもへの支援の在り方を探るための調査研究（科研費）
	教授 井上 みゆき 講師 真下 綾子	平成 22 年 12 月 韓国	韓国の看護系大学教員の研究動向、基礎看護教育の現状等の調査（共同研究費）

5 地域活動

1) 教員の社会的活動 2010年度

氏名	職位	社会的活動
(看護関連科学) 林正 健二	教授	- 厚生労働省:看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム 医道審議会(保健師助産師看護師分科会員) - 山梨県准看護師試験委員 - NPO 法人山梨ホスピス協会理事
文珠 紀久野	教授	- 日本臨床心理士資格認定協会 研修理事 - 山梨臨床心理士会 幹事及び研修委員長 - 南部地区特別支援連携協議会 会長 - 増穂町 就学指導委員会委員長 - 南部地区就学指導委員会 委員長 - 公共交通の利用困難者における支援方策に関する調査研究 会長 - Japan Laboratory Trainers Association 幹事及び事務局長 - 山梨 Hyman Interaction Laboratory 研究会 代表 - 山梨グループ研究会 会長
小田切 陽一	教授	- 環境省健康リスク評価委員会委員 - 山梨県環境科学研究所課題評価委員 - 山梨県産業保健推進センター相談員(保健相談指導) - 山梨県健康長寿やまなし推進本部委員 - 山梨県いのちのセーフティネット連絡協議会委員 - 労働者健康福祉機構 産業看護 N コース講師 - 山梨県県民栄養調査分析(健康増進課) - 坂井自殺予防対策連絡協議会講演(坂井市健康福祉センター 2011. 2. 8) - 甲府警察少年補導地域カンファレンス(山梨県文学館 2011. 1. 20)
百々 雅子	准教授	- 山梨産業保健推進センター 産業保健特別相談員 - 日本保健医療社会学会 評議員 - がん患者会「支えあう会α」(活動場所 千葉大学内) 気功教室 主宰
本間 隆之	講師	- 昭和町健康増進計画策定委員会委員 - 富士吉田市立看護専門学校 非常勤講師 - 帝京山梨看護専門学校 非常勤講師 - 山梨県立大学看護実践開発センター :看護職のための統計学基礎講座 講師 - 山梨産業保健推進センター :産業看護職のためのエクセルによるデータ解析の実技研修 講師 :産業看護講座短縮 N コース 講師 - 山梨学院生涯学習センター事業 FM 甲府「生涯学習の時間」 出演 - 山梨県立中央病院主催 講演会 「男性同性間の HIV 感染対策と研究の動向」 講師 - 思春期性教育・性感染症研究会主催 講演会 「性の健康教育用スライド作成の経験から」 講師 - 山梨県中北保健福祉事務所主催 講習会 「エイズ及び性感染症(STD)の基礎知識と感染予防について」 講師 - 高大連携授業 甲府城西高校「家庭看護・福祉」 講師 - 忍野村次世代育成支援に関するニーズ調査データ分析支援 - 富士川町健康診査結果分析支援
山北 満哉	助教	- 富士吉田市立看護専門学校 非常勤講師 - 山梨大学 非常勤講師

氏名	職位	社会的活動
(基礎看護学) 小林 たつ子	教授	- 山梨排尿問題研究会第11回山梨排尿障害セミナー演者, 「高齢者の夜間頻尿に足浴は有効か」 2010.4.8 - 山梨県臨床指導者講習会講師 ・看護理論(講義・演習) ・看護過程の展開(講義・演習) - 山梨県看護協会 教育委員会会長(2008～) - 山梨県看護協会看護職員確保対策協議会委員(2008～) - 笛吹市地域包括支援センター 介護支援専門員研修会 講師 2011.9.16 - 山梨県看護協会峡南地域看護研究発表会 講評 2011.2.17 - 山梨県看護職員就業環境改善アドバイザー派遣事業 ・韮崎東ヶ丘病院(看護実践と看護理論) ・韮崎市立病院(臨床看護研究指導) - 春日居リハビリテーション病院看護研究発表会 講評 2011.2.26 - 池田地区健康まつり協力 2011.3.6
五味 千帆	准教授	池田地区健康まつり参加
相羽 利昭	講師	- 社会保険山梨病院研修会講師 『老年看護』 - 山梨県就業環境改善アドバイザー
中橋 淳子	助教	- 山梨県アドバイザー派遣事業 財団法人三生会病院 看護記録・看護過程の指導 講師 - 山梨県実習指導者講習会 看護理論, 看護過程 講師 - 山梨県作業療法士研修会「口腔内における喀痰等の吸引」 - 山梨県看護協会「看ご研究ーそれは看護のあくなき探求ー」 演習支援者
立石 ゆか	助手	
井口 久美子	助手	
(地域看護学) 佐藤 悦子	教授	- 山梨県認知症対策推進会議 座長 - 山梨県介護実習普及センター運営会議 座長 - 山梨県訪問看護推進会議 委員 - 在宅ターミナル地域連絡会議中北地区 委員 - 認知症対策地域連絡強化事業スーパーバイザー (山梨市 韮崎市) - 山梨県看護協会訪問看護師養成講習会 講師 - 山梨県介護支援専門員研修専門課程・更新研修Ⅱ 講師 - 山梨県看護協会主催「事例に学ぶ退院後の成果を見据えた地域連携」 講師 コーディネーター - 山梨県保健師臨床研修 講師 - 山梨県臨床実習指導者講習会 講師 - 山梨県訪問看護ステーション・医療機関に勤務する看護師の相互研修 講師 - 在宅ターミナル期にある人のチーム医療を考える 中北保健所峡北支所主催 座長 - 産業看護講座短縮Nコース「保健指導の考え方と実践方法」講師 「在宅医療を支える」富士川町山梨県立大学講座 2010 講師 - 質的統合法 (KJ 法) 研究会 監事
村松 照美	教授	- 山梨県公害審査委員候補者委託 - 山梨県発達障害支援企画・推進委員 - 山梨県保険者協議会特定健診・特定保健指導等 評価委員 - 山梨県保険協議会山梨県支部健康づくり推進協議会委員 - 山梨県母性衛生学会 理事 - 日本福祉工学会 評議員

氏名	職位	社会的活動
井出 成美	准教授	7. 昭和町次世代育成支援地域行動計画策定協議会委員 8. 北杜市健康増進計画策定指導 9. 甲府市保健事業分析・評価指導 10. 産業看護講座短縮Nコース 講師 11. 山梨県実習指導者講習会 講師 12. 特定健診・特定保健指導結果データ等を活用した分析・評価研修会 講師 1. 文化看護学会 理事 2. 地域包括支援センターのケアマネジメント支援のデータ分析支援 甲府市との地域包括ケア体制の構築に係る実証研究に関する協定に基づく協力支援
依田 純子	講師	1. 認知症介護実践研修（実践リーダー研修） 講師 2. 山梨市認知症対策連携強化事業 スーパーバイザー 3. 山梨県看護協会訪問看護師養成講習会 講師 4. 山梨県看護協会訪問看護師継続研修 講師 5. 甲州市介護支援専門員事例検討会 講師 6. 山梨県作業療法士研修会「口腔内における喀痰吸引等の吸引」演習指導
泉宗 美恵	講師	1. 平成 22 年度山梨県介護支援専門員研修専門課程・更新研修Ⅱ 講師 2. 山梨県看護協会主催「事例に学ぶ退院後の生活を見据えた地域連携」研修会 演習講師 3. 山梨県看護協会富士・東部地区支部主催「看護職とケアマネジャーの連携についての意見交換会」講師 4. 在宅ケア推進委員，山梨県看護協会 5. 山梨市認知症対策連携強化事業 スーパーバイザー 6. 韮崎市認知症対策連携強化事業 スーパーバイザー 7. 山梨県訪問看護師認定講習 講師 8. 訪問看護師継続研修 講師 9. 山梨県作業療法士研修会「口腔内における喀痰吸引等の吸引」演習指導
望月 宗一郎	講師	1. 山梨県保険者協議会特定健診・特定保健指導等 評価委員 2. 保健師現任教育研修 講師，山梨県富士・東部保健福祉事務所 3. 地域包括支援センター担当者会議 講師，山梨県中北保健福祉事務所長寿介護課 4. 特定健診・特定保健指導結果データ等を活用した分析評価研修会 講師，山梨県保険者協議会・山梨県国民健康保険団体連合会 5. 調査研究「未熟児及びその保護者支援における行政保健師の役割」指導，山梨県富士・東部保健福祉事務所 6. 甲府市保健事業分析・評価への指導 7. 北杜市健康増進計画策定指導，北杜市市民部健康増進課 8. レセプト及び健診データ分析支援事業に係る細部解析支援，山梨県国民健康保険団体連合会 9. 介護保険地域支援事業の評価に関する実態調査指導，山梨県中北保健福祉事務所 長寿介護課 10. 保健事業研究会 講師「保健師活動における地区診断とは」，千葉県国民健康保険団体連合会 夷隅支部 11. 高大連携授業 講師「なぜ行政に保健師がいるのか」，城西高校
須田 由紀	助教	1. 学際統合型看護専門職連携教育開発プロジェクトワーキングチーム構成員
小尾 栄子	助教	1. YIHSN（やまなし国際保健支援ネットワーク）役職：会計 2. 医療通訳セミナー 役職：グループワーク指導担当（平成19年～現在） 3. 甲府市立甲府西高校ミニ大学出前講座「海外における看護活動」講師 4. 北杜市立須玉中学校 いのちの授業「東ティモールの戦災孤児におけ

氏名	職位	社会的活動
(精神看護学) 清水 恵子	教授	る健康支援と調査活動」講師 5. HIV/AIDSサポートやまなし 会員 1. 甲州ケアホーム講演会講師 2010. 8. 5 2. 「山梨において自殺問題を考える集い」実行委員とパネラー 2010. 10. 30 3. 住吉病院研究発表大会助言講師 2010. 11. 26 4. 山梨県就労支援アドバイザー事業, 社会保険鰍沢病院看護研究 講師
山田 光子	准教授	1. 山梨県看護協会看護管理研修ファーストレベル 講師 2. 山梨県実習指導者講習会において「精神看護学の教育と実習について」 講師 3. 看護実践開発研究センターにおいて「新人研修責任者研修」 講師
野澤 由美	講師	1. 山梨県実習指導者講習会 講師
渥美 一恵	助手	1. 山梨県実習指導者講習会 講師 2. 山梨県就業環境改善アドバイザー事業 講師 3. 放送大学看護学習支援ツール作成協力
(母性看護) 石田 貞代	教授	1. 日本看護科学学会和文論文査読委員 2. 市立甲府病院「倫理Ⅰ」「倫理Ⅱ」 研修講師 3. 国立病院機構甲府病院「看護研究」 研修講師 4. やまなしヘルスケア情報分析研究会主催
伏見 正江	教授	1. アフター北京, やまなし・女・こころ・からだトーク主催「女性の心とからだ相談(リプロ相談)室」電話相談, 1993. 4～現在 2. 山梨県立中央病院 いちごの会・双子の会 ボランティア, 1998～現在 3. 山梨県立中央病院 女性専門外来スタッフ研修, 2004. 8～現在 4. 山梨県立大学地域交流研究センター, やまなし地域女性史研究プロジェクト～助産師の聞き書き指導, 2005. 12～現在 5. 山梨県実習指導者講習会講師, 2000. 9～現在 6. 女性健康ネットワーク学習会: 山梨県におけるプライマリマタニティーケア連続学習講座, 2007. 4～現在 7. 山梨県立男女共同参画推進センター主催「市民企画講座」「ピアカウンセリング」, 2000. 8～現在
滝沢 美津子	准教授	
名取 初美	准教授	1. 山梨県看護協会助産師職能理事 2. 山梨県周産期医療協議会委員 3. 山梨大学医学部附属病院「院内助産事業」評価委員 4. 山梨母性衛生学会 理事 5. 山梨県立大学看護学部同窓会白樹会事務局長 6. 山梨県臨床指導者講習会講師 7. 山梨県消防職員専科教育救急科講師 8. 富士吉田市立病院看護部研究指導 9. 市立甲府病院看護部教育委員会主催研修会講師 10. 山梨県立大学春季総合講座講師
平田 良江	講師	1. 山梨県看護協会主催 看護研究講師 2. 山梨県消防職員専科教育救急科 講師
萩原 結花	助教	1. 市立甲府病院研究指導 2. 山梨県立中央病院 双子の会・いちごの会ボランティア窓口責任者
(小児看護学)		

氏名	職位	社会的活動
井上 みゆき	教授	1. 甲府市幼児教育センターの月齢別講座 テーマ「育児の気がかり」 年間 3 回 2. 太田高等看護学院 (群馬県) 科目名: 小児看護学概論 特別講義 「子どもの権利と看護」 3. 山梨県実習指導者講習会「小児看護学の教育と実習」講師 4. 山梨小児保健協会 理事
田淵 和子	准教授	1. 甲府市幼児教育センターの月齢別講座 講師 テーマ「育児の気がかり」 年間 6 回 2. 山梨県立甲府城西高校 連携授業 講師 テーマ「子どもの成長・発達と支援」 3. 日本小児看護学会誌 (含: 日本小児看護学会学術集会投稿原稿) 専任査読者
大久保 ひろ美	講師	1. 甲府市幼児教育センターの月齢別講座 テーマ「育児の気がかり」 年間 3 回 2. 平成 22 年度 山梨県実習指導者講習会 「実習指導者の役割」 講義担当 「実習指導案作成の実際」 演習指導担当 3. 高大連携授業 山梨県立甲府南高等学校 講義テーマ「社会の中で生きる子どもの成長・発達する力」 4. 山梨県看護職員の就業環境改善アドバイザー事業 アドバイザー派遣病院: 山梨勤労者医療協会 石和共立病院 医療法人峡南会 峡南病院
茂手木 明美	講師	1. 甲府市幼児教育センターの月齢別講座 テーマ「育児の気がかり」 年間 3 回 2. 山梨県教育委員会 教員免許更新講習講師 3. 山梨県子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業・南都留養護教員 研究会講師 4. 国立病院機構甲府病院 看護研究指導講師
(成人看護学) 松下 由美子	教授	1. 山梨医療安全研究会会長 2. 山梨県社会福祉事業団理事 3. 日本産業カウンセリング学会理事・倫理委員会委員 4. 日本応用心理学会理事・編集委員会委員 5. 日本慢性看護学会評議員・専任査読委員 6. 日本看護研究学会評議員・専任査読委員 7. 日本キャリア・コンサルタント技能検定委員 8. 山梨県医療審議会委員 9. 平成 22 年度職場の心理的・制度的側面の改善方法に関する調査研究 委員会委員 10. 山梨慢性看護研究会会長 11. 山梨県快適職場促進事業委員会委員 12. 「患者・家族と医療従事者との対話促進に向けて」, 平成 22 年度山 梨県医療安全推進研修会 講演 2010 13. 「チェックシート(快適職場調査)を活用したソフト面での快適職場 づくり」, 日本産業カウンセリング学会第 23 回研修会 講演, 2010. 14. 「看護師のキャリア・プラトー現象に影響を及ぼす要因—A 県内の 病院で働く看護師を対象に一」, 山梨県看護管理者第 2 回研修 講演 2010 15. 「山梨医療安全研究会の 5 年間の歩み、そしてこれから」, 山梨医療 安全研究会第 6 回大会会長講演 2010 16. 山梨県看護協会認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師(医 療安全, キャリア形成支援, 看護教育制度, 看護専門職の役割と機 能) 2010 17. 山梨県実習指導者研修会 講師 (看護教育制度) 2010 18. メディカ出版研修会 講師 (医療安全の授業をどう設計するか)

氏名	職位	社会的活動
		2010
遠藤 みどり	教授	1. 日本クリティカルケア看護学会編集委員／専任査読担当者 2. 山梨県看護協会学会委員会 委員長 3. 山梨術後疼痛管理研究会 会長 4. 日本集中治療医学会看護部会全国 ICU 鎮痛・鎮静調査メンバー 5. 平成 22 年度山梨看護学会特別講演座長 6. 山梨県実習指導者講習会 講師 7. 山梨県作業療法士会研修 講師 8. 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
梶原 睦子	教授	1. 静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程 非常勤講師 2. 京都橘大学看護教育研修センター 非常勤講師 3. 社団法人福岡県看護協会看護専門教育センター 非常勤講師 4. 日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 5. 新潟青陵大学認定看護師研修センター 非常勤講師 6. 社会福祉法人賛育会 賛育会病院 創傷・ストーマケア外来看護指導
渡辺 かづみ	准教授	1. 山梨県実習指導者講習会 講師 2. 山梨県看護協会継続教育研修 講師 3. 富士吉田市立看護専門学校 講師
城戸口 親史	講師	1. 日本感染看護学会（評議員・幹事） 2. 日本災害看護学会ネットワーク活動委員（2005-） 3. 山梨県実習指導者講習会講師，山梨県 4. 就業環境改善アドバイザー派遣事業 アドバイザー，山梨県（2008-） 5. 山梨県立大学 教員免許状更新講習講師（2009-） 6. 「現場に活かせる感染対策」，講師・ファシリテータ，山梨県看護協会 7. 「看護研究指導」，山梨県看護協会 8. 山梨県看護協会制度委員会委員 9. 「職場における感染症予防対策及び予防接種の動向」，山梨産業保健推進センター 2010 10. 「事例をもとに統計の基本を学ぶ」，石川県立中央病院 11. 看護研究発表会 講，石川県立中央病院
小林 美雪	助教	1. 医療の質・安全学会研修委員会委員（2009～現在） 2. 第 5 回医療の質・安全学会 査読委員・口演座長 3. 第 6 回医療の質・安全学会プログラム編集委員 4. 第 14 回日本看護管理学会 年次大会企画・プログラム編集委員 5. 山梨医療安全研究会役員（2007～現在） 6. 山梨ホスピス協会理事（2009～現在） 7. 山梨看護学会一般口演第 1 群「医療安全」 座長 2010. 12. 18 8. 山梨県就業環境改善アドバイザー事業 上野原市立病院医療安全体制の整備 アドバイザー，2010. 7～2011. 1 9. 山梨県看護協会医療安全委員会 研究アドバイザー，2011. 1～3 10. 「小規模医療機関における医療安全体制整備のために」，社）日本看護協会 拡大医療安全推進会議 講演 2010. 7. 14 11. 「小規模医療機関の医療安全」，社）鹿児島県看護協会 医療安全研修会 講演 2010. 10. 2 12. （財）日本医療機能評価機構医療安全研修，RCA 分析（2008～現在） 講師 2011. 1. 30 13. 甲府看護専門学校「医療安全」講義 講師 2010. 9 14. メディカ出版ナーシンググラフィカ看護教育力 UP セミナー「医療安全の授業をどのように展開するか-講義から実習まで-」（2008～現在）講師（大阪 2010. 9. 26/東京 10. 24） 15. 日本精神科看護技術協会医療安全研修 5 日間コース 1 日目「医療安全の基本的知識・安全管理体制の構築について」 講師 2011. 3. 14
山本 奈央	助教	1. 山梨術後疼痛管理研究会 事務局

氏名	職位	社会的活動
高岸 弘美	助教	- 第 41 回 日本看護学会 論文選考委員（成人看護Ⅱ） - 山梨県就業環境改善アドバイザー事業 石和温泉病院 3 B 病棟看護研究指導（2010. 4～2011. 2） - 平成 22 年度 国立甲府病院 看護研究指導 - 山梨県立市川高校と山梨県立塩山高校における出前講義 - 山梨慢性看護研究会事務局 - 第 1 回山梨慢性看護研究会学術集会事務局
井川 由貴	助教	- 外科系病棟, 整形外科病棟, 外来における看護研究指導, 山梨県立大学看護実践開発研究センター事業 - 臨床看護師を対象とした術後疼痛管理に関する講習会講師, 「術後疼痛管理における看護師の役割」 - 山梨術後疼痛管理研究会 事務局 - 作業療法士を対象とした鼻口腔吸引に関する研修指導
(老年看護学) 流石 ゆり子	教授	- 日本在宅ケア学会誌査読委員 - 山梨県認知症対策推進会議委員 - 山梨県交通政策会議委員 - 南アルプス市地域包括支援センター運営協議会委員 - 笛吹市地域包括支援センター運営協議会委員 - 笛吹市地域密着型サービスに関する委員会委員 - 昭和町地域包括支援センター運営協議会委員 - 昭和町地域密着型サービスに関する委員会委員 - 昭和町生きがい大学講師 - 山梨県認知症介護実践リーダー研修会講師『家族支援の方策』 - 山梨県認知症介護実践リーダー研修会講師『ケースカンファレンスの持ち方』 - 山梨県認知症介護実践者研修会講師『認知症高齢者と家族関係論』 - 山梨県看護協会訪問看護師認定講習会講師 - 山梨県実習指導者講習会講師『老年看護学の実習と教育』 - 山梨ことぶき勸学院甲府学園講座講師 - 介護老人福祉施設白根聖明苑職員研修会講師『施設高齢者の QOL』 - 峡南保健福祉事務所認知症早期発見・早期対応推進にかかる研修会講師
渡邊 裕子	准教授	- 山梨県看護協会「看護研究・・・それは看護のあくなき探究」演習支援者 - 山梨県介護支援専門員更新研修Ⅱ（施設コース）講師 - 昭和町高齢者健康教育「見逃さないで！身体サイン～健康チェックをしよう」講師 - 山梨ことぶき勸学院甲府学園講座 講師 - 松本短期大学「疾病・治療論各論Ⅰ（脳神経疾患）」非常勤講師 - 山梨県立大学看護学部平成 22 年度 FD 研修会「タイアップ科目の現状と課題」講師 - 山梨県立大学看護実践開発センター 平成 22 年度「新人看護職員研修事業 研修責任者研修」講師 - 身延山病院 看護師研修「看護が見える記録」講師 - 山角病院 看護研究指導 - 日本適応看護理論研究会 事務局長（2010. 9 まで）
森田 祐代	助教	- 山梨県看護協会 山梨看護学会 査読者 - 平成 22 年度 山梨県実習指導者講習会（「実習指導計画作成」演習指導）講師 2010. 1. 19～28
小山 尚美	助教	- 平成 22 年度 甲府城西高校『特色ある高校づくり支援事業』講師 - 平成 22 年度 山梨県実習指導者講習会（「実習指導計画作成」演習指導）講師 2010. 1. 19～28

氏名	職位	社会的活動
(看護管理学) 田中 彰子	教授	1. 日本看護協会認定看護管理者実行委員会委員 2. 山梨県看護協会看護管理者教育運営委員会委員 3. 日本看護マネジメント学会理事 4. 日本看護評価学会評議員 5. 日本感染看護学会評議員 6. 山梨県看護協会看護管理者ファーストレベル研修会講師 7. 神奈川県立保健福祉大学看護実践センター非常勤講師 8. 埼玉県看護協会研修会講師 9. 山形県看護協会研修会講師 10. 宮崎県国民健康保険診療施設連絡協議会研修会講師 11. 東京都ナースプラザ研修会講師 12. 全国自治体病院研修会講師 13. 日本病院協会研修会講師 14. 草加市立病院研修会講師 15. 山梨県就業環境改善アドバイザー事業アドバイザー（山梨厚生病院） 16. 同（市川三郷病院） 17. 山梨県委託事業 新人看護職員研修責任者研修講師 18. 第14回日本看護管理学会年次大会シンポジウム「アウトカム指標としての看護必要度の適正な評価とその有効利用」座長 19. 第2回日本看護マネジメント学会研究会「引き継ぎと看護記録」シンポジスト
真下 綾子	講師	1. 医療マネジメント学会 評議員 2. 日本看護管理学会 看護の適正評価に関する検討委員会 委員 3. 上尾中央総合病院看護研修センター 教育運営委員会委員 4. 国際医療福祉大学 サードレベル演習担当講師 5. 看護業務 IT 化検討委員会委員（財団法人医療情報システム開発センター） 6. 看護業務検討分科会委員（財団法人医療情報システム開発センター） 7. 看護記録検討分科会委員（財団法人医療情報システム開発センター） 8. 就業環境アドバイザー 山梨社会保険病院（2010）
(看護教育学) 吉田 文子	准教授	1. 教育講演講師「主体的な学習の実現に向けた教育課程への取り組み - GPA 制度導入による開かれた看護教育評価を目指して 主催：千葉県看護学校研究協議会 2010.6 2. 学習会講師① GPA 制度の考え方とその実際 - 教育効果を高めるために - 主催：山梨県立大学全学教務委員会 連携：大学評価本部, 全学 FD 委員会 2010.7 3. 学習会講師②（国際政策部） GPA 制度の考え方とその実際 - 教育効果を高めるために - 主催：山梨県立大学全学教務委員会 連携：大学評価本部, 全学 FD 委員会 2010.9 4. 学習会講師③（人間福祉学部） GPA 制度の考え方とその実際 - 教育効果を高めるために - 主催：山梨県立大学全学教務委員会 連携：大学評価本部, 全学 FD 委員会 2010.9 5. 学習会講師④（看護学部） GPA 制度の考え方とその実際 - 教育効果を高めるために - 主催：山梨県立大学全学教務委員会 連携：大学評価本部, 全学 FD 委員会 2010.10 6. 教員講演講師 看護実践力の育成 - 発想の転換 主催：埼玉県高等看護学校看護教員研究会第12回大会 2010.8 7. 研修会講師 基礎看護技術の教授方法 主催：日本看護学校協議会東北ブロック 2010.8 8. 研究会講師 看護基礎教育における看護技術・看護学実習の指導方法 主催：長野県看護教育研究会 2010.8 9. 実習指導者講習会講師 看護教育の目的と方法 主催：山梨県医務課 2010.9 10. 実習指導者講習会講師 教育課程の意義、目的 主催：山梨県医務課

氏名	職位	社会的活動
吉澤 千登勢	講師	2010. 9 11. 平成 22 年度研修会講師 看護実践力の育成－発想の転換 主催：全国自治体病院協議会 2010. 9 12. セミナー講師（大阪会場）学習者主体の教育方法への転換 主催：メディカ出版 2010. 9 13. セミナー講師（東京会場）学習者主体の教育方法への転換 主催：メディカ出版 2010. 9 14. 新人看護職員責任者研修会講師 成人学習者モデル/看護継続教育の概念 主催：看護実践開発研究センター 2010. 11 15. 教育研修会講師 学習者主体の授業展開とその教育原理 主催：茨城県看護教員連絡会 2010. 12 16. 平成 22 年度新任教員研修会講師 看護基礎教育における看護技術・看護学実習の指導方法 主催：茨城県結城看護専門学校 2011. 2 17. 第 20 回日本看護学教育学会査読員 18. 第 20 回日本看護学教育学会座長 主催：日本看護学教育学会 2010. 8
		1. 山梨県医療機関等就業環境改善アドバイザー事業「看護倫理」講師・富士吉田市立病院（3 回/9～12 月）：講義（全看護職員対象「看護実践における倫理」・副看護師長対象「看護倫理事例検討会」）・都留市立病院（4 回/10～1 月）：講義（全看護職員対象「看護実践における倫理」・主任看護師対象「看護倫理事例検討会」） 2. 研修会講師：富士吉田市立病院 副看護師長対象「看護倫理事例検討会」 2010. 10. 22 3. 質の高い大学教育推進プログラム（文部科学省 教育 GP）「学際統合型専門職連携教育開発プログラム成果報告会」第 1 部座長 2010. 10. 2 4. ハンセン病療養所「栗生楽泉園」～元患者さんと看護大生及び保健師との宿泊交流会～コーディネーター 2010. 9. 13～14 5. 山梨県実習指導者講習会「看護倫理」講師 2010. 7. 22 6. 講演会講師：社会保険山梨病院 全職員研修会「医の倫理 <i>Medical Ethics</i>」 2010. 7. 15 7. 質の高い大学教育推進プログラム（文部科学省 教育 GP）「学際統合型専門職連携教育開発プログラム」執行部委員・専門職連携ワーキングサブリーダー 2008～2010 年度
(外国語) 杉田 由仁	准教授	1. 山梨県学力向上推進協議会委員 2. 山梨県中学校英語教育研究会・関東ブロック大会 指導・助言者 3. 山梨県中学校英語教育研究会・研修会 講師 4. 東山梨教育協議会外国語部会・研修会 講師 5. 笛吹支部英語教育研究部会・研修会 講師 6. 第 60 回山梨県高等学校英語暗唱弁論大会（弁論の部）審査委員長 7. 甲府東高等学校ミニ大学 講師 8. 山梨大学附属小学校・学校評議員 9. 全国英語教育学会 紀要編集委員会 査読委員 10. 関東甲信越英語教育学会 紀要編集委員会 査読委員
長坂 香織	准教授	1. 平成 22 年度文化庁委託『生活者としての外国人』のための日本語教育事業：介護のための日本語 講師 2. やまなし国際保健支援ネットワーク 事務局長 3. やまなし国際保健支援ネットワーク主催、鈴木財団助成による「多言語による子どもと母親のための健康相談会」企画・実施（3 施設） 4. 「やまなし国際保健支援ネットワーク『ノロウイルスについて』（ポルトガル語版、スペイン語版）」企画・作成、山梨県国際交流協会ホームページ掲載 5. やまなしライフサポート実行委員 6. 山梨県国際交流協会主催 県内在住外国人の暮らしを考える意見交換会 講師 7. やまなしインターナショナルネットワーク 新春多文化交流会 講師

2) 公開講座実施状況

年度	演題	講師	日時
22	あなたとあなたの赤ちゃんの健康を守るための助産師活用術	山梨県立大学 看護学部 名取 初美	5月29日

3) 県民コミュニティカレッジ（地域ベース講座）

年度	演題	講師	日時
22	地域ベース講座 第1回「笑いで生き生き！人生はつらつ！ ー 医療・健康不安解消のためのライフ・プラン ー	笑医塾塾長 東京医療保健大学教授 高柳 和江	11月27日

4) 図書館の利用状況

年度	貸出件数	貸出冊数	入館者数	調査・ 相談件数	文献複写 依頼件数	学外図書利用 カード登録者数
22	6,381	12,377	84,523	1,775	728	460

6 研究業績一覧表

<看護関連科学>

著書

- 1) 林正健二: (古川裕之, 赤瀬智子, 林正健二編), ナーシング・グラフィカ④臨床薬理学第1版第5刷, p67-86, メディカ出版, 2011. 2.
- 2) 竹田義文, 小田切陽一: (竹田美文, 安達修一編), わかりやすい公衆衛生学 (第3版), p121-128, p183-201, 三共出版, 2011. 3.
- 3) 高橋美保子, 小田切陽一: 産業保健スタッフのための保健統計学, 労働者健康福祉機構山梨産業保健推進センター, 2010. 4.

原著・論文

- 1) 市川敏美, 近藤直司, 小野茂, 今村亨, 小田切陽一: 自殺予防対策に向けたこころの健康に関する調査, 山梨県精神保健福祉センター研究紀要, 1-37, 2010.
- 2) 長坂香織, 百々雅子: 医療の多文化化に向けて—山梨県在住外国人の語りから見る医療の現状と課題, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 47-60, 2011.
- 3) Yamakita M, Ando D, Tang S, Yamagata Z. The Trp64Arg polymorphism of the beta3-adrenergic receptor gene is associated with weight changes in obese Japanese men: a 4-year follow-up study. J Physiol Anthropol. Vol.29, 133-139, 2010.

学会報告

- 1) 内田博之, 小田切陽一: わが国の男児出生割合の動向とその割合の将来推計, 第69回日本公衆衛生学会, p191, 2010.
- 2) 橋本満知子, 小田切陽一: 高齢者の自立率と当該世代の過去的生活行動に関する生態学的研究, 第69回日本公衆衛生学会, p343, 2010.
- 3) 中村拓也, 内田博之, 大竹一男, 澁谷真紀, 内田昌希, 小田切陽一, 夏目秀視, 小林順: 都道府県別にみた平均自立期間および平均要介護期間の地域集積性, 日本薬学会第131回年会, 2011.
- 4) 金子彩野, 内田博之, 大竹一男, 澁谷真紀, 内田昌希, 小林順, 小田切陽一, 夏目秀視: 都道府県別にみた死因別損失生存可能年数(YPLL)の地域集積性, 日本薬学会第131回年会, 2011.
- 5) 秦野環, 文珠紀久野, 宮林郁子: 国内暴動時の女性に対する暴力—ケニア選挙後暴動時の状況, 予防策構築に向けての取り組み, 第17回日本災害看護学会, 2010.
- 6) 文珠紀久野: 心的外傷を負ったケース—東ティモールにおける戦乱被害者の箱庭作品, 第2回日本箱庭療法学会全国研修会, 2011.
- 7) 日高庸晴, 古谷野淳子, 橋本充代, 本間隆之, 品川由香, 横山葉子, 山崎浩司, 木村博和: インターネット利用MSMを対象にした認知行動理論によるオンラインHIV予防介入研究(第1報)プログラムの開発, 日本エイズ学会, p442, 2010.
- 8) 本間隆之, 日高庸晴, 古谷野淳子, 橋本充代, 品川由香, 横山葉子, 山崎浩司, 木村博和: インターネット利用MSMを対象にした認知行動理論によるオンラインHIV予防介入研究(第2報)プログラムの効果評価, 日本エイズ学会, p326, 2010.
- 9) 本間隆之, 望月宗一郎, 青柳京子, 小田切陽一, 佐藤悦子: 高齢者の見守り体制構築に向けた近所づきあい等の現状と見守り訪問のニーズ, 第69回日本公衆衛生学会, p370, 2010.
- 10) 山北満哉, 本間隆之, 内田博之, 小山勝弘, 小田切陽一: 児童, 生徒の体力・運動能力に対する年齢・時代・世代の影響(その1) 50m走, 第69回日本公衆衛生学会, p539, 2010.
- 11) 木内政孝, 饗場千夏, 韓宝宝, 山北満哉, 安藤大輔, 田中喜典, 小山勝弘: 廃用性萎縮時の酸化ストレス応答と水素溶存水の影響, 第65回日本体力医学会, p595, 2010.
- 12) 饗場千夏, 木内政孝, 韓宝宝, 安藤大輔, 山北満哉, 小山勝弘: 運動誘発性酸化ストレスが海馬における脳由来神経栄養因子へ及ぼす影響, 第65回日本体力医学会, p748, 2010.

その他

- 1) 林正健二 (監修・編著): 解剖生理学 DS (ソフト), メディカ出版, 2011.
- 2) 飯島純夫, 小田切陽一: 山梨県内企業における雇用形態の違いによる健康管理活動の差異 (労働者健康福祉機構 産業保健実態調査報告書, 2010.
- 3) 文珠紀久野: New ウィ・ナスのためのカウンセリング入門 第4回-第14回, 泌尿器ケア, 15(4)-(12), 2010-16(1)-(3), 2011. (通年連載)
- 4) 百々雅子: すっきり&やすらぎアロマ 『訪問介護と看護』, 医学書院, 15(4)-(12), 2010-16(1)-(3), 2011. (月刊 通年連載)
- 5) 百々雅子, 長坂香織: 多文化共生社会における外国人医療・福祉に関する問題: 山梨在住韓国出身グループ・インタビュー, 外国人看護師を雇用する病院へのインタビュー, 大学と地域の連携による多文化共生プロジェクト, 山梨県立大学地域研究交流センター2010年度報告書, p17-34, 2010.
- 6) 百々雅子: がん患者会「支えあう会α」通信誌『α通信』気功入門 季刊連載.

<基礎看護学>

原著・論文

- 1) 小林たつ子, 矢崎朋美, 藤原由理子, 小沢宏美, 中橋淳子: 体位変換による腸蠕動の変化と腸音測定の検討—アクチグラフマイクロミニ型音センサーを用いて—, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 37-46, 2011. 3.
- 2) 中橋淳子, 小林たつ子, 井口久美子, 五味千帆他: リフレクソロジーによる排便状況の変化について—便秘傾向にある健康女子大生を対象にして—, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 69-76, 2011. 3.
- 3) 井出成美, 河野由乃, 泉宗美恵, 下村幸仁, 佐藤悦子, 神山裕美, 吉澤千登勢, 柳田正明, 小野興子, 清水恵子, 田中彰子, 伊藤健次, 大澤準一, 望月宗一郎, 須田由紀, 中橋淳子, 森田裕代, 山本奈央, 三井千波留, 平形満美子, 松橋昌代: 「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト—看護・福祉学生協働による地域包括支援センターをつくる—」の一環として実施した地域包括支援センター職員研修会の成果, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 77-90, 2011.

学会報告

- 1) KOBAYASHI Tatsuko, TAKEDA Masayuki, YOSHIYAMA Mitsuharu: THE EFFECT OF WARM FOOTBATH BEFORE SLEEP ON THE IMPROVEMENT OF BOTH NOCTURIA AND NOCTURNAL POLYURIA IN GERIATRIC JAPANESE FEMALE WITH BOTHERSOME NOCTURIA - RANDOMIZED CROSSOVER STUDY-, ICS(International Continence Society) 40th Annual Meeting, TORONTO CANADA, 134, 2010. 8.
- 2) 中橋淳子, 井口久美子, 五味千帆, 小林美雪, 相羽利昭, 小林たつ子: 筋肉内注射における注射部位の選定についての検討, 一基礎看護技術教育におけるサブテキスト 51 書の記述内容の分析一, 日本看護技術学会第9回学術集会講演抄録終(名古屋), 100, 2010. 10.
- 3) 井口久美子, 中橋淳子, 五味千帆, 小林美雪, 立石ゆか, 小林たつ子: 注射技術に共通する基礎看護学具術教育におけるサブテキストの記述内容の分析一, 日本看護技術学会第9回学術集会講演抄録終(名古屋), 101, 2010. 10.

その他

- 1) 小林たつ子, 泉宗美恵, 伊藤健次: 特養・老健における看護職・介護職連携の現状, コミュニティケア, 12(9), 50-59, 2010. 8.
- 2) 小林たつ子: 高齢者の夜間頻尿に対する足浴の効果, 泌尿器ケア, 16(2), 71-73, 2011. 2.
- 3) 小林たつ子, 中橋淳子, 立石ゆか, 佐藤いずみ, 河西恵美, 岡宏美, 五味千帆, 井口久美子: 新卒者と臨床経験5年以上の看護師のアセスメントから看護診断に至る思考過程の比較検討—グループインタビューからの内容分析より—, 山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2011. 3.
- 4) 小林たつ子: 【泌尿器科最新トピックス(62号)】足浴は高齢者夜間頻尿を改善する, 泌尿器ケア, 15(3), 46, 2010.
- 5) 小林たつ子: 【看護研究投稿サポートグループ】尿管がん患者の終末期への看護—スピリチュアル

ペインに焦点をあてて一，泌尿器ケア，15(7)，154-155，2010.

- 6) 小林たつ子：【看護研究投稿サポートグループ】術後を快適に過ごせる病衣の工夫—ファスナーを用いた膀胱留置カテーテル挿入患者の病衣の工夫—，泌尿器ケア，16(1)，102-103，2011.1.

<地域看護学>

著書

- 1) 佐々木峯子，井伊久美子，金川克子，平野かよ子，斎藤恵美子，佐藤悦子他：（佐々木峯子ほか編集），新版保健師業務要覧 第2版，480-485，日本看護協会出版会，2011.2.
- 2) 宮崎美砂子，平山朝子，鈴木久美子，春山早苗，北山三津子，田村須賀子，井出成美：（宮崎美砂子ほか編集），最新地域看護学総論第2版，日本看護協会出版会，322-326，2010.10.

原著・論文

- 1) 村松照美：地域の成人に対する運動支援方法の試案に関する研究，平成22年度山梨大学大学院博士課程人間環境医工学専攻学位論文，2010.
- 2) 高岸弘美，村松照美，渡邊裕子，名取初美，茂手木明美，相羽利昭，小尾栄子他：高校生を対象とした当事者参加型体験プログラムの効果に関する研究，～ひらめき・ときめきサイエンスようこそ大学の研究室へ～を実施して，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，61-68，2011.
- 3) 泉宗美恵，松下裕子，黒沢美智子，稲葉裕，横山和仁：在宅療養者の医療ケアを行う家族の介護ストレスに及ぼす介護環境の影響，民族衛生，76(4)，155-163，2010.
- 4) 井出成美，河野由乃，泉宗美恵，下村幸仁，佐藤悦子，神山裕美，吉澤千登勢，柳田正明，小野興子，清水恵子，田中彰子，伊藤健次，大澤準一，望月宗一郎，須田由紀，中橋淳子，森田祐代，山本奈央，三井知波留，平形満美子，松橋昌代：「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト—看護・福祉学生協働による地域包括支援センターを核とした住民参加型ケアシステムをつくる—」の一環として実施した地域包括支援センター職員研修会の成果，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，77-90，2011.
- 5) 神山裕美，伊藤健次，佐藤悦子，吉澤千登勢，清水恵子，田中彰子，望月宗一郎，山本奈央，小野興子，大澤準一，河野由乃，下村幸仁，柳田正明，横山貴美子，山田千明，井出成美，泉宗美恵，須田由紀，中橋淳子，森田祐代，三井知波留，平形満美子，松橋昌代：英米教育成果に基づく専門職連携教育の開発～学際統合型専門職連携プログラムより～，山梨県立大学人間福祉学部紀要，6，47-56，2011.
- 6) 望月宗一郎：地域包括支援センター専門職スタッフにみられる職業性ストレスの実態，山梨大学看護学会誌9(2)，35-42，2011.

学会報告

- 1) 清水つかさ，佐藤悦子，松下裕子：がん終末期患者が最期まで在宅での療養生活を継続できた要因に関する検討，第13回日本地域看護学会学術集会講演集，116，2010.7.
- 2) 金井美希，佐藤悦子，松下裕子：在宅療養時と家族を対象とした訪問看護が実施可能となる要因の検討，第13回日本地域看護学会学術集会講演集，116，2010.7.
- 3) 村松照美：運動継続支援のためのロールモデルカタログの作成，日本公衆衛生雑誌，第69回日本公衆衛生学会抄録集57(10)，539，2010.
- 4) 流石ゆり子，小山尚美，萩原理恵子，林正健二，村松照美他：認知症啓発における住民組織の抱える課題（その1）—Y県B町のふれあいサロンボランティアの会へのインタビューより—，第11回日本認知症ケア学会抄録集，9(2)，342，2010.
- 5) 流石ゆり子，小山尚美，萩原理恵子，郷洋子，村松照美他：認知症啓発における住民組織の抱える課題（その1）—Y県B町の民生委員会協議会へのグループインタビューより—，日本老年看護学会第15回学術集会，246，2010.
- 6) 保坂理恵，久保田佑子，吉留慶子，望月邦子，望月宗一郎，村松照美：子どもの救急時における保護者の対処行動に関連した保健所の役割，第13回山梨県公衆衛生研究発表会，2010.
- 7) Kuniko Ishii, Noriko Sato, Narumi Ide, Hiromi Hayashi: Development of the Support Program for

Japanese Grandparents caring for Infant Grandchildren: Based on the Evaluation of the Satisfaction with Grandparents' Needs, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2011. 2.

- 8) 吉澤千登勢, 神山裕美, 佐藤悦子, 柳田正明, 河野由乃, 小野興子, 清水恵子, 田中彰子, 山田千明, 大澤準一, 横山貴美子, 泉宗美恵, 望月宗一郎, 伊藤健次, 中橋淳子, 山本奈央, 須田由紀, 下村幸仁, 井出成美, 森田裕代: 地域包括支援センターをフィールドとした看護学部・人間福祉学部の学生による専門職連携教育の成果と課題ー学生の自己評価からの検討ー, 第3回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 2010.
- 9) 本間隆之, 望月宗一郎, 青柳京子, 小田切陽一, 佐藤悦子: 高齢者の見守り体制構築に向けた近所づきあい等の現状と見守り訪問のニーズ, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 370, 2010.
- 10) 望月宗一郎: 地域包括支援センター職員の業務に対する認識と職業性ストレスとの関連, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 507, 2010.
- 11) 横田恵子, 中村彰, 若野宏美, 澤井大輔, 石川拓耶, 望月宗一郎: 地域包括支援センター業務への支援における県保健福祉事務所の役割の検討, 第13回山梨県公衆衛生研究発表会, 2011.
- 12) 石原布巳, 成島由香里, 嶋津栄伸, 深沢直美, 小林治子, 池谷澄香, 望月宗一郎: 未熟児及びその保護者支援における行政保健師の役割の検討, 第13回山梨県公衆衛生研究発表会, 2011.
- 13) 田中結香, 望月宗一郎: A 県内病院ソーシャルワーカーの業務上の不安とメンタリングに対する認識, 第8回山梨社会福祉実践学会ソーシャルワーク実践研究発表会, 2011.
- 14) 浅川美知子, 保坂洋枝, 望月宗一郎: 特定保健指導への取り組みとその効果の検討ー第1報ー, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 254, 2010.
- 15) 小澤結香, 望月宗一郎: 介護療養型医療施設の社会的入院に対する看護師と医療ソーシャルワーカーの認識, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 381, 2010.
- 16) 清水裕子, 望月宗一郎: 中・高教職員の一次救命処置 BLS と自動体外式除細動器 AED に対する認識, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 301, 2010.
- 17) 土屋綾子, 望月宗一郎: 市町村保健師の職務満足感と精神的健康度との関連, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 495, 2010.
- 18) 増田晃子, 望月宗一郎: 小児科病棟看護師の職業性ストレスとその対処行動との関連, 第69回日本公衆衛生学会総会抄録集, 57(10), 274, 2010.
- 19) 近藤尚己, 須田由紀, 中尾篤人, 大霜かよ子, 鈴木孝太, 佐藤美理, 田中太一郎, 山縣然太郎: 母乳中の免疫制御サイトカイン Transforming Growth Factor (TGF) 濃度に影響を与える要因: 中間分析結果, 第21回日本疫学会学術総会, 2011.

その他

- 1) 佐藤悦子, 神山裕美, 吉澤千登勢, 井出成美, 泉宗美恵, 望月宗一郎, 須田由紀他: 平成 20~22 年度 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム (教育 GP)」採択 学際統合型専門職連携教育開発プロジェクトー最終報告書ー, 山梨県立大学 (編集担当), 2011. 3.
- 2) 依田純子, 泉宗美恵, 佐藤悦子他: 認知症高齢者を介護する家族への地域住民ピアサポーターによる支援の意味ー主介護者の介護意識に関する質的検討ー, 平成 22 年度山梨県立大学共同研究費助成研究成果報告書, 2011.
- 3) 吉田文子, 杉田由仁, 田淵和子, 平田良江, 依田純子, 小林美雪, 流石ゆり子: FD活動事例: 教員相互の授業参観とその一分析ー参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析ー, 第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 155-156, 2011.
- 4) 杉田由仁, 吉田文子, 田淵和子, 依田順子, 平田良江, 小林美雪, 流石ゆり子: 授業評価結果に基づくFD活動事例ー学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析ー, 第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 67-68, 2011. 3.

<精神看護学>

原著・論文

- 1) 清水恵子: 地域で生活する統合失調症患者のメタボリックシンドローム発症に関連する要因の検討,

日本精神保健看護学会, 19(1), 44-62, 2010.

- 2) 清水恵子, 藤井康男, 三澤史斉, 深沢くに子, 横森いづみ, 高野雅樹: 通院する統合失調症患者のメタボリックシンドローム発症を改善する取り組みへ, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 1-15, 2011.
- 3) 山田光子, 渥美一恵, 野澤由美, 清水恵子, 津端飛鳥, 鈴木美保, 横森いづみ, 入戸野正, 松浦良徳: 隔離中の暴力や威嚇状態にある患者への看護介入, 日本精神科看護学会誌, 53(2), 47-51, 2010.
- 4) 渥美一恵: 看護基礎教育における精神障害当事者参加授業の教育成果ーポートフォリオ「日々の記録」による検討ー, 第41回日本看護学会論文集<看護教育>, 71-74, 2010.

学会報告

- 1) 清水恵子: 通院する統合失調症患者の喫煙の有無による生活習慣とメタボリックシンドローム発症の関係, 日本精神保健看護学会第20回総会・学術集会, 176-177, 2010.
- 2) 渥美一恵: 看護基礎教育における精神障害当事者参加授業の教育成果ーポートフォリオ「日々の記録」による検討ー, 第41回日本看護学会<看護教育>, p57, 2010.

その他

- 1) 清水恵子, 坂本玲子, 大塚ゆかり, 末木恵子, 守屋法子: 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究2, 山梨県立大学地域研究交流センター2010年度研究報告書, 1-84, 2011.

<母性看護学>

学会報告

- 1) 望月好子, 石田貞代, 小川景子: 高校生への「生と性の授業」によるエンパワメント効果, 日本助産学会誌, 24(3), p.195, 2011.
- 2) 金澤宏枝, 平田良江, 名取初美: 女子大学生の月経随伴症状に対するアロマセラピーの効果, 第51回日本母性衛生学会, 238, 2010.

その他

- 1) 伏見正江, 萩原結花, 山下貴美子, 草野香寿恵, 山本栄, 米倉弥生: 「森の力を活かした女性の健康プロモーション研究〜第一報〜」平成22年度山梨県立大学地域研究交流センター研究報告書, 2011. 3.
- 2) 池田政子, 伏見正江編: やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト, 平成22年度山梨県立大学地域研究交流センター研究報告書, 2011. 3.
- 3) 伏見正江: 身体感覚を磨くリラクゼーション体験会〜生まれる力・産む力と助産師の力, 山梨県北杜市長坂町地域委員会, 2010. 8. 7.
- 4) 伏見正江: 性のヘルスプロモーション, 山梨英和大学, 2010. 6. 1.
- 5) 伏見正江: デートDV学習会, 山梨県立大学保健センター, 2010. 10. 27.
- 6) 伏見正江: デートDVフォーラム, 女性の人権サポートクローバー, 2010. 11. 3.
- 7) 伏見正江: 思春期の健康, 山梨県立城西高校, 2010. 11. 16.
- 8) 池田政子, 伏見正江他: やまなしの女性史を学ぶ連続公開講座, 山梨県立男女共同参画推進センター, 2010. 11. 13 (第1回), 11. 27 (第2回).
- 9) 伏見正江: 山梨県立大ヘルスプロモーションクラブ: デートDVについて考えよう, 山梨県立城西高校, 2010. 12. 13, 12. 20.
- 10) 伏見正江: 山梨県立大学ヘルスプロモーションクラブ: 自分のからだの主人公になろう!, 山梨県北杜市泉中学校・山梨県北杜市明野中学校, 2011. 3. 4.
- 11) 伏見正江: 清水かすみ, 花田富美子, 渡邊京子: 女性の健康力を高めよう!〜ライフサイクルをとおした女性のからだ, 月経と女性の健康, 山梨県立男女共同参画推進センター, 2011. 2. 26.
- 12) 伏見正江: 清水かすみ, 花田富美子, 渡邊京子: 女性の健康力を高めよう!〜子宮頸がんを予防について, 山梨県立男女共同参画推進センター, 2011. 3. 11.
- 13) 伏見正江: 冊子・山梨DV被害者支援のための医療機関マニュアル, やまなし女性健康ネットワーク, 2010. 4.

- 14) 伏見正江: 山梨県の看護者DV防止啓発カレンダー(2010), やまなし女性健康ネットワーク, 2010. 4.
- 15) 伏見正江: 心も体も緑で元気, 朝日新聞, 2010. 6. 2.
- 16) 池田政子, 伏見正江: 山梨地域女性史「聞き書き」プロジェクト: 大正, 昭和の県内女性像紹介, 山梨日日新聞, 2010. 8. 12.
- 17) 伏見正江: いいお産の日フォーラム in 北杜展示『世界のお産』, 山梨県北杜市, 2010. 11. 3.
- 18) 池田政子, 伏見正江: 山梨地域女性史「聞き書き」プロジェクト: 証言集「伝えたい山梨の女性たちより」次代へのことづて 1~14, 山梨日日新聞, 2010. 12. 20~2010. 12. 30.
- 19) 池田政子, 伏見正江: 山梨地域女性史「聞き書き」プロジェクト: やまなし研究広場展示~山梨の医療を支えた14名の女性医師~, 山梨県立博物館, 2011. 2. 11~2011. 3. 13.
- 20) 伏見正江: 「性」について考える中高生に出前講座, 山梨日日新聞, 2011. 3. 16.
- 21) 伏見正江: 山梨県立大学ヘルスプロモーションクラブ: 「2011 年デートDV防止ハンドブック」, 2011. 3. 30.
- 22) 滝沢美津子: インドにおける人工妊娠中絶に関する一考察 -ジェンダーと宗教の視点から-ホ・ロゴス $\delta \lambda \delta \sigma \gamma \omicron \zeta$ vol.14.No1, pp9-11, 2011. 3.
- 23) 渡邊裕子, 井川由貴, 平田良江, 茂手木明美, 森田祐代: 看護大学におけるヘルスアセスメント実践能力の育成・向上に向けた教育の取り組みと成果, 平成22年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2011. 3.
- 24) 杉田由仁, 吉田文子, 田淵和子, 依田順子, 平田良江, 小林美雪, 流石ゆり子: 授業評価結果に基づくFD活動事例ー学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析ー, 第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 67-68, 2011. 3.
- 25) 吉田文子, 杉田由仁, 田淵和子, 平田良江, 依田順子, 小林美雪, 流石ゆり子: FD活動事例: 教員相互の授業参観とその分析ー参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析ー第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 155-156, 2011. 3.

<小児看護学>

著書

- 1) 井上みゆき: (船戸正久編集), 新生児・小児医療にかかわる人のための看取りの医療, 1-186, 診断と治療社, 2010. 11.

原著論文

- 1) 茂手木明美, 浅川和美, 前橋明: 学校現場における創傷処置時の閉鎖療法の実践と養護教諭の認識, 運動・健康教育研究, 17(1), 7-13, 2011. 3.
- 2) 菅由美子, 茂手木明美: 乳児期の子どもをもつ母親の親役割獲得過程と意識の変化 育児を経験することによる親性の構築, 幼少児健康教育研究, 18(1), 55-62, 2011. 3.

学会報告

- 1) 茂手木明美, 浅川和美: 創傷処置時の閉鎖療法に関する養護教諭の認識, 第7回インターナショナルすこやかキッズ支援ネットワーク全国セミナー, 2011. 3.

その他

- 1) 杉田由仁, 吉田文子, 田淵和子, 依田純子, 平田良江, 小林美雪, 流石ゆり子著: 授業評価結果に基づくFD活動事例, 学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析, 第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 67-68, 2011. 3.
- 2) 吉田文子, 杉田由仁, 田淵和子, 平田良江, 依田順子, 小林美雪, 流石ゆり子: FD活動事例: 教員相互の授業参観とその分析ー参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析ー第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 155-156, 2011. 3.
- 3) 大久保ひろ美: 子どもに薬をどう飲ませる?, 山梨日日新聞(すくすこ2011), 2011. 2.
- 4) 高岸弘美, 村松照美, 渡邊裕子, 名取初美, 茂手木明美, 相羽利昭, 小尾栄子, 渥美一恵, 山北満

哉：高校生を対象とした当事者参加型体験プログラムの効果に関する研究～ひらめき☆ときめきサイエンスようこそ大学の研究室へ～を実施して，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，61-68，2011.3.

- 5) 渡邊裕子，井川由貴，平田良江，茂手木明美，森田祐代：看護大学におけるヘルスアセスメント実践能力の育成・向上に向けた教育の取り組みと成果，平成22年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書，1-42，2011.3.

<成人看護学>

著書

- 1) 松下由美子，杉山良子，小林美雪 監修・執筆：ナースィング・グラフィカEX1「医療安全」第1版第3刷 第1章1節，第2章（小林），第8章（松下），メディカ出版，2011.

原著・論文

- 1) 松下由美子，田中彰子，吉田文子，杉本君代，雨宮久子，山本寛：看護師のキャリア・プラトー化に影響を及ぼす要因—A県内の病院で働く看護師を対象に一，第41回日本看護学会論文集「看護管理」，101-104，2010.
- 2) 小林美雪，松下由美子，笠井英美，藤森玲子，大石操，城戸口親史：看護師の注射業務における安全確認行為に関する実験研究，第40回日本看護学会論文集「看護管理」，p153-155，2010.
- 3) 高岸弘美：手術後6ヶ月以内の喉頭摘出患者における自己効力感とQOLの変化とその関連要因，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，17-25，2011.
- 4) 高岸弘美，村松照美，渡邊裕子他：高校生を対象とした当事者参加型体験プログラムの効果に関する研究～ひらめき☆ときめきサイエンス ようこそ大学の研究室へ～を実施して，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，61-68，2011.
- 5) 武田真弓，旗持知恵子，松下由美子：経皮的冠動脈インターベンションを受けた心筋梗塞患者の回復過程における「不確かさ」—フォローアップ心臓カテーテル検査期間に焦点をあてて—，日本慢性看護学会誌，4(2)，33-40，2010.
- 6) 菅野美代子，山田美和子，国馬和加，織田豊，穴澤貞夫，梶原睦子：体位によるストーマ状況変化に着目した装具装着法の工夫，日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌，26(3)，49-55，2010.

学会報告

- 1) 松下由美子，田中彰子，吉田文子，杉本君代，雨宮久子，山本寛：看護師のキャリア・プラトー化に影響を及ぼす要因—A県内の病院で働く看護師を対象に一，第41回日本看護学会抄録集「看護管理」，22，2010.
- 2) 渡辺かづみ，遠藤みどり，山本奈央：初療室実習を通しての学生の学び，日本看護学教育学会第20回学術集会，158，2010.
- 3) 小林美雪，松下由美子，藤森玲子：注射業務におけるダブルチェックの類型と特徴，日本看護研究学会雑誌，33(3)，225，2010.
- 4) 小林美雪，嶋森好子，内田宏美，安井はるみ：小規模医療機関の医療安全にいかに関与するか，第14回日本看護管理学会インフォメーションエクステンジ1，p171，2010.
- 5) 高岸弘美：化学療法を受けている患者に対するクライオセラピーの口内炎予防の効果，第36回日本看護研究学会，p157，2010.
- 6) 井川由貴，遠藤みどり，山本奈央，城戸口親史，藤森玲子，星野裕美，中込洋美，篠原昭子，渡辺美保子，牛山佳菜，沼倉聡子，峯松昭子，梶原絢子，山本真基子，脇本雄文：臨床看護師への術後疼痛管理に関する研修会の学び，第41回日本看護学会，p21，2010.
- 7) 山本寛，松下由美子，田中彰子，吉田文子，杉本君代，雨宮久子：看護師のキャリア目標の設定とキャリア・プラトー化との比較の観点から—内容的プラトー化との比較の観点から—，産業・組織心理学会，第26回大会発表論文集，101-104，2010.
- 8) 牛山佳菜，遠藤みどり，渡辺かづみ：重症患者の栄養管理に対するICU看護師の認識，第6回日本クリティカルケア看護学会，142，2010.

- 9) 藤森玲子, 小林美雪, 松下由美子, 笠井英美, 中田寛子, 大石操: 看護学テキストに記載された注射業務の安全確認行為の分析, 第 41 回日本看護学会抄録集, 57, 2010.
- 10) 須森未枝子, 旗持智恵子, 松下由美子: 保存期糖尿病腎症女性患者の食事療法を継続するための意欲に関連する要因, 日本慢性看護学会誌, 4(1), A75, 2010
- 11) 小野興子, 横山宏, 小林美雪, 堀内千晶: ホスピス研修講座開催に際して行った「終末期医療に関する意識調査」について, 第 16 回日本臨床死生学会抄録集, p62, 2010.
- 12) 巴山玉連, 尾崎フサ子, 佐々木かおる, 川崎久子, 小林美雪, 加藤栄子, 北爪明子: ワークライフバランスを考慮した潜在看護職の勤務形態のモデル化と検証, 第 14 回日本看護管理学会インフォメーションエクステンジ 1, p172, 2010,
- 13) 吉澤千登勢, 神山裕美, 佐藤悦子, 柳田正明, 河野由乃, 小野興子, 清水恵子, 田中彰子, 山田千明, 大澤準一, 横山貴美子, 泉宗美恵, 望月宗一郎, 伊藤健次, 中橋淳子, 山本奈央, 須田由紀, 下村幸仁, 井出成美, 森田裕代: 地域包括支援センターをフィールドとした看護学部・人間福祉学部の学生による専門職連携教育の成果と課題—学生の自己評価からの検討—, 第 3 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, p48, 2010.

その他

- 1) 遠藤みどり, 井川由貴: 作業療法士に必要な吸引の基礎知識 気道吸引の実際と危険を冒さない・失敗しないための「コツ」, 作業療法ジャーナル, 45(2), 138-146, 2011
- 2) 梶原睦子: 特集創傷治癒機転と創傷管理からみた周手術期ストーマケア グラフィックセミナー, 臨床看護, 37(6), 270-276 終頁, 2011.
- 3) 小林美雪: 患者安全の取組み—中小医療機関の実践から—, 月刊国民医療「第 23 回看護・介護講座」, No273, p8-14, 国民医療研究所, 2010.
- 4) 小林美雪, 藤森玲子, 笠井英美: 医療安全の視点からみた病棟・ナースステーションの整理整頓, ナーシングビジネス, 4(12), p30-49, メディカ出版, 2010.
- 5) 小林美雪, 藤森玲子, 長田美由紀: 特集 1 食事・入浴・排泄ケアにおける事故防止, 病院・介護施設における KYT 活動の進め方, 臨床老年看護, 17(6), p19-29, 日総研, 2010.
- 6) 木村周, 松下由美子, 市川佳子, 菊池克彦, 武田繁夫, 藤井博, 古山善一, 三澤哲夫, 森まり子: 平成 22 年度職場の心理的・制度的側面の改善方法に関する調査研究委員会報告書, 79-116, 2010.
- 7) 渡邊裕子, 井川由貴, 平田良江, 茂手木明美, 森田祐代: 看護大学におけるヘルスアセスメント実践能力の育成・向上に向けた教育の取り組みと成果, 平成 22 年度 山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究, 2010.
- 8) 巴山玉連, 尾崎フサ子, 小林美雪, 佐々木かおる, 川崎久子: 潜在看護師が復職しやすい環境づくりを目指して—アメリカ合衆国ミネソタ州病院視察報告より—, ナーシングビジネス, 4(5), p50-54, メディカ出版, 2010.
- 9) 吉田文子, 杉田由仁, 田淵和子, 平田良江, 依田純子, 小林美雪, 流石ゆり子: F D 活動事例: 教員相互の授業参観とその一分析—参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析—, 第 17 回大学教育研究フォーラム発表論文集, 155-156, 2011.
- 10) 杉田由仁, 吉田文子, 田淵和子, 依田順子, 平田良江, 小林美雪, 流石ゆり子: 授業評価結果に基づく F D 活動事例—学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析—, 第 17 回大学教育研究フォーラム発表論文集, 67-68, 2011. 3.

<老年看護学>

原著・論文

- 1) 渡邊裕子, 森田祐代, 流石ゆり子, 萩原理恵子, 小山尚美, 中澤緑, 水口哲, 森本清, 深沢勝彦: 看護学生との交流による地域リーダー高齢者の若者イメージの変化, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 27-35, 2011.
- 2) 古田加代子, 流石ゆり子, 伊藤康児: 地域高齢者の閉じこもり防止のための条件—保健医療福祉従事者へのグループインタビューから—, 愛知県立大学看護学部紀要, 16(1), 15-22, 2010.
- 3) 高岸弘美, 村松照美, 渡邊裕子, 名取初美, 茂手木明美, 相羽利昭, 小尾栄子, 渥美一恵, 山北満

哉：高校生を対象とした当事者参加型体験プログラムの効果に関する研究～ひらめき☆ときめきサイエンスようこそ大学の研究室へ～を実施して，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，61-65，2011.

- 4) 森田祐代：訪問看護サービスにおける 24 時間の電話対応と緊急対応の実態，山梨大学大学院医学工学総合教育部 修士課程（看護学専攻），平成 22 年度修士論文，2011.
- 5) 井出成美，河野由乃，泉宗美恵，下村幸仁，佐藤悦子，神山裕美，吉澤千登勢，柳田正明，小野興子，清水恵子，田中彰子，伊藤健次，大澤準一，望月宗一郎，須田由紀，中橋淳子，森田祐代，山本奈央，三井知波留，平形満美子，松橋昌代：「学際統合型専門職連携教育プロジェクトー看護・福祉学生協働による地域包括支援センターを核とした住民参加型ケアシステムをつくるー」の一環として実施した地域包括支援センター職員研修会の成果：山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，77-90，2011.
- 6) 神山裕美，伊藤健次，佐藤悦子，吉澤千登勢，清水恵子，田中彰子，望月宗一郎，山本奈央，小野興子，大澤準一，河野由乃，下村幸仁，柳田正明，横山貴美子，山田千明，井出成美，泉宗美恵，須田由紀，中橋淳子，森田祐代，三井知波留，平形満美子，松橋昌代：英米教育成果に基づく専門職連携教育の開発～学際統合型専門職連携プログラムより～，山梨県立大学人間福祉学部紀要，6，47-56，2011.

学会報告

- 1) 古田加代子，流石ゆり子：閉じこもり高齢者への支援方法に関する検討ー回想法と運動指導による介入を試みてー，日本地域看護学会第 13 回学術集会，179，2010. 7.
- 2) 市川綾香，流石ゆり子：認知症高齢者のケアから得るものー認知症専門棟に勤務する職員へのインタビューよりー，第 41 回日本看護学会抄録集（老年看護），71，2010. 9.
- 3) 萩原理恵子，中澤緑，小山尚美，渡邊裕子，流石ゆり子，水口哲，森本清：地域リーダー高齢者が若者に対して抱く印象『看護学生との交流事業』後の調査からー，第 41 回日本看護学会抄録集（老年看護），187，2010. 9.
- 4) 磯野京一郎，林高広，草塩美里，海野みどり，渡邊裕子：認知症高齢者のライフプロセスや言動に注目する意味ー周辺症状のある患者の看護を振り返ってー，第 41 回日本看護学会抄録集（老年看護），12，2010. 9.
- 5) 堀場早紀，渡邊裕子：ネイルケアが認知症高齢者の日常生活に及ぼす効果ー介護老人保健施設に入所する認知症高齢者の身体・心理・社会面の変化からー，第 41 回日本看護学会抄録集（老年看護），184，2010. 9.
- 6) 流石ゆり子，小山尚美，萩原理恵子，林正健二，村松照美，郷洋子，大原恵，戸倉由紀，小野興子：認知症の啓発における住民組織の抱える課題（その 1）ーA 県 B 町のふれあいサロンボランティアの会へのインタビューよりー，第 11 回日本認知症ケア学会プログラム・抄録集，342，2010. 10.
- 7) 流石ゆり子，小山尚美，萩原理恵子，郷洋子，村松照美，大原恵，戸倉由紀：認知症の啓発における住民組織の抱える課題（その 2）ーY 県 A 町の民生委員協議会へのグループインタビューよりー，日本老年看護学会第 15 回学術集会抄録集，246，2010. 11.
- 8) 中村温子，流石ゆり子：介護老人福祉施設で終末期を迎えた高齢者の望むケアー介護家族へのインタビューよりー，日本老年看護学会第 15 回学術集会抄録集，267，2010. 11.
- 9) 古田加代子，松井孝浩，伊藤昌子，石橋朋子，流石ゆり子：地域で暮らす高齢者の老いや死の不安に関する検討，日本老年看護学会第 15 回学術集会抄録集，218，2010. 11.
- 10) 小山尚美，渡邊裕子，流石ゆり子，萩原理恵子，水口哲，森本清：地域リーダー高齢者が抱く若者イメージの変化『看護学生との交流事業』前後での比較，日本老年看護学会第 15 回学術集会抄録集，234，2010. 11.
- 11) 渡邊裕子：課題別セッションⅣ 専門性をはぐくむ看護師養成教育の質保証「タイアップ科目の現状と課題ーヘルスアセスメント実践論ー」，日本教育制度学会第 18 回大会プログラム，25，2010. 11.
- 12) 吉澤千登勢，神山裕美，佐藤悦子，柳田正明，河野由乃，小野興子，清水恵子，田中彰子，山田千明，大澤準一，横山貴美子，泉宗美恵，望月宗一郎，伊藤健次，中橋淳子，山本奈央，須田由紀，下村幸仁，井出成美，森田祐代：地域包括支援センターをフィールドとした看護学部・人間福祉学部の学生による専門職連携教育の成果と課題ー学生のリフレクションペーパーから検討ー，第 3 回日本

その他

- 1) 流石ゆり子, 渡邊裕子, 小山尚美, 森田祐代, 萩原理恵子, 中澤緑, 水口哲, 森本清, 深沢勝彦: 看護学生との交流による地域リーダー高齢者の活動への満足度・心理・若者像の変化―「異世代間交流事業」参加前・後の比較から― (Part II), 山梨県立大学地域研究交流センター2010 年度研究報告書, 2011. 3.
- 2) 流石ゆり子: 介護施設における終末期ケアの体制づくり, 臨床老年看護, 18(1), 2-7, 2011. 1.
- 3) 杉田由仁, 吉田文子, 田淵和子, 依田純子, 平田良江, 小林美雪, 流石ゆり子: 授業評価結果に基づく FD 活動事例―学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析―, 第 17 回大学教育研究フォーラム発表論文集, 67-68, 2011. 3.
- 4) 吉田文子, 杉田由仁, 田淵和子, 平田良江, 依田純子, 小林美雪, 流石ゆり子: FD 活動事例: 教員相互の授業参観とその一分析―参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析―, 第 17 回大学教育研究フォーラム発表論文集, 155-156, 2011. 3.
- 5) 渡邊裕子, 井川由貴, 平田良江, 茂手木明美, 森田祐代: 看護大学におけるヘルスアセスメント実践能力の育成・向上に向けた教育の取り組みと成果, 山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2011. 3.
- 6) 佐藤悦子, 吉澤千登勢, 泉宗美恵, 田中彰子, 望月宗一郎, 須田由紀, 森田祐代 他(山梨県立大学教育 GP 専門職ワーキングチーム): 「質の高い大学教育推進プログラム」学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト ―報告書―, 文部科学省, 2011. 3.

<看護管理学>

著書

- 1) 石川誠, 井上郁, 岩澤和子, 酒井美絵子, 田中彰子, 筒井孝子, 東野定律, 山内豊明: (岩澤和子, 筒井孝子), 看護必要度―看護サービスの新たな評価基準 (第 4 版), 36, 看護必要度 (Ver. 4) のチェック項目とその選択肢, 37-89, 看護必要度 (Ver. 4) チェック票記入の手引き, 90-116, 例題, 117-131, 看護必要度の評価者養成, 158-166, 院内研修用ビデオ教材作成とポイント, 167-173, 看護必要度院内導入後, 評価の信頼性を維持するための方策, 217-232, 看護必要度と看護記録, 日本看護協会出版会, 2010. 11. 1.
- 2) 國分茂博, 田中彰子編集(2010): 肝・胆・脾疾患の治療と看護, 改訂, 南江堂, 2010. 2. 10.

原著・論文

- 1) 松下由美子, 田中彰子, 吉田文子, 杉本君代, 雨宮久子, 山本寛: 看護師のキャリア・プラトー化に影響を及ぼす要因―A 県内の病院で働く看護師を対象に―第 41 回日本看護学会論文集, 25-28, 2011. 5. 16.
- 2) 有馬志津子, 矢山壮, 三上洋, 谷川緑, 嶺岸秀子, 田中彰子, 千崎美登子, 大石八重子, 萩原修代: 一般病院に勤務する看護師の禁煙支援の現状と関連要因の検討, 日本公衆衛生雑誌, 57(3), 203-213, 2010. 3. 15.

学会報告

- 1) 山本寛, 松下由美子, 田中彰子, 吉田文子, 杉本君代, 雨宮久子: 看護職のキャリア目標の設定とキャリア・プラトー化との関係―内容的プラトー化との比較の観点から―, 産業・組織心理学会第 26 回大会発表論文集, p101-104, 2010. 9.
- 2) 松下由美子, 田中彰子, 吉田文子, 杉本君代, 雨宮久子, 山本寛: 看護師のキャリア・プラトー化に影響を及ぼす要因―A 県内の病院で働く看護師を対象に―第 41 回日本看護学会抄録, p22, 2010. 10.
- 3) 真下綾子, 秋山智弥, 福井トシ子, 田中彰子: 先駆的に人員配置マネジメントシステムを導入した医療機関の実態調査, 第 14 回日本看護管理学会年次大会講演抄録集, p89, 2010. 8.
- 4) 千崎美登子, 嶺岸秀子, 佐藤美紀, 児玉美由紀, 久米恵江, 桑名寿美, 岩本純子, 清水裕子, 村田友紀子, 田中彰子: 終末期がん患者の看護に困難感をもつナースへの育成プログラムの開発―M. Newman

の理論に基づく対話の導入（ケーススタディ）ー，第24回日本がん看護学会学術集会講演集，p196，2010.2.

- 5) 真下綾子：看護系大学における教員の「教育力」を培うための課題の明確化，第30回日本看護科学学会学術集会年次大会講演抄録集，2010.12.

<看護教育学>

原著・論文

- 1) 山本寛，松下由美子，田中彰子，吉田文子，杉本君子，雨宮久子：看護職のキャリア目標の設定とキャリア・プラトリー化との関係ー内容的プラトリー化との比較の観点からー第26回産業・組織心理学会論文集，pp101-104. 2010.9.
- 2) 松下由美子，田中彰子，吉田文子，杉本君子，雨宮久子，山本寛：看護師のキャリア・プラトリー現象とその影響要因に関する研究ーA県内の病院で働く看護師を対象にー第41回日本看護学会論文集ー看護管理ー，101-104，2010.
- 3) 吉澤千登勢：ハンセン病元患者の社会的ネットワークの構築と看護職が担うべき論理的責務，日本看護医療学会雑誌，12(1)，1-8，2010.
- 4) 神山裕美，伊藤健次，佐藤悦子，吉澤千登勢，清水恵子，田中彰子他：英米教育成果に基づく専門職連携教育の開発ー学際統合型専門職連携プログラムよりー，山梨県立大学人間福祉学部紀要，6，47-56，2011.
- 5) 井出成美，河野由乃，泉宗美恵，下村幸仁，佐藤悦子，神山裕美，吉澤千登勢，柳田正明他：「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクトー看護・福祉学生協働による地域包括支援センターを核とした住民参加型ケアシステムをつくるー」の一環として実施した地域包括支援センター職員研修の成果，山梨県立大学看護学部紀要，13(1)，77-99，2011.

学会報告

- 1) 吉澤千登勢，真下綾子，白鳥孝子，工藤真由美：看護系大学における学生の学士力の到達状況と教員の教育活動，第30回日本看護科学学会学術集会講演集，319，2010.
- 2) 吉澤千登勢，神山裕美，佐藤悦子，柳田正明，河野由乃他：地域包括支援センターをフィールドとした看護学部・人間福祉学部の学生による専門職連携教育の成果と課題ー学生の自己評価からの検討ー，第3回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集，48，2010.

その他

- 1) 吉田文子：実習お役立ちBOOK，2010.
- 2) 吉田文子：プチナース「看護技術Q&A」連載，照林社，19(4)-20(3)，2010-2011.
- 3) 吉田文子：特集：プチナース「実習に役立つ調べものガイド」，照林社，19(15)，pp.15-34，2010.
- 4) 吉田文子，杉田由仁，田淵和子，依田純子，平田良江，小林美雪，流石ゆり子：FD活動事例：教員相互の授業参観とその一分析，第17回大学教育研究フォーラム発表論文集 pp.155-156，2010.3.
- 5) 杉田由仁，吉田文子，田淵和子，依田純子，平田良江，小林美雪，流石ゆり子：授業評価結果に基づく授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析，第17回大学教育研究フォーラム発表論文集，pp.67-68，2010.3.
- 6) 神山裕美，吉澤千登勢，須田由紀，中橋淳子他：文部科学省，質の高い教育推進プログラム採択(教育GP)『学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト 最終報告書』，山梨県立大学(編集責任者補佐・教育GP執行部)，2011.3. (文責・吉澤千登勢：専門職連携演習教材開発，116-119 / 米国調査・研修 Tuner Geriatric Clinic, East Ann Arbor Health and Geriatric Center, 156-159)
- 7) 吉澤千登勢：国立療養所栗生楽泉園を学生と共に訪れて，『高原』，19-20，2011.3.

<外国語>

原著・論文

- 1) Yoshihito SUGITA: Reliability and validity of a task-based writing performance assessment for

- Japanese learners of English 『日本言語テスト学会紀要 (JLTA Journal)』, 13, 21-40, 2010.
- 2) Yoshihito SUGITA: Enhancing students' fluency in writing: Learning to use transition words
Proceedings of the 15th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, 73-78, 2010.
 - 3) 杉田由仁: 英語科指導改善のストラテジーと指導モデル, 山梨県中学校英語教育研究会紀要, 39, 4-9, 2011.
 - 4) 長坂香織, 百々雅子: 医療の多文化化にむけてー山梨県在住外国人の語りから見る医療の現状と課題, 山梨県立大学看護学部紀要, 13(1), 47-60, 2011.

学会報告

- 1) Yoshihito SUGITA: Reliability and validity of task-based writing performance assessment of L2 writing, The 44th Annual Conference of IATEFL Harrogate, UK, 2010.
- 2) Yoshihito SUGITA: Enhancing students' fluency in writing: Learning to use transition words, The 15th Conference of PAAL Seoul, Korea, 2010.
- 3) 杉田由仁: 学習者間のリーディング能力差に配慮したレッスンプランーオーラル・イントロダクションのプレ・リーディング活動としての効果ー, 第49回大学英語教育学会・全国大会(宮城大学), 2010.
- 4) 長坂香織: 異文化間医療・看護を目指した教育ー外国語の授業における試み, 異文化間教育学会第31回大会, 奈良, 2010.

その他

- 1) 杉田由仁: 中学校英語ステップアッププラン, 山梨県教育委員会HP (<http://www.kai-step-up.org>), 2010.
- 2) 吉田文子, 杉田由仁, 田淵和子, 平田良江, 依田純子, 小林美雪, 流石ゆり子: FD活動事例: 教員相互の授業参観とその一分析ー参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析ー, 第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 155-156, 2011.
- 3) 杉田由仁, 吉田文子, 田淵和子, 依田順子, 平田良江, 小林美雪, 流石ゆり子: 授業評価結果に基づくFD活動事例ー学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析ー, 第17回大学教育研究フォーラム発表論文集, 67-68, 2011. 3.
- 4) 百々雅子, 長坂香織: 多文化共生社会における外国人医療・福祉に関する問題: 山梨在住韓国出身者グループ・インタビュー / 外国人看護師を雇用する病院へのインタビュー, 山梨県立大学地域研究交流センター2010年度研究報告書: 大学と地域の連携による多文化共生推進プロジェクト 2, 17-34, 2011.

7. 山梨県立大学大学院看護学研究科

<教育目的>

山梨県立大学大学院看護学研究科は、看護学の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与するとともに、高度専門職業人、看護学教育者および看護学研究者等の人材を育成する。

①高度専門職業人の育成

ますます高度化・専門化する医療や在宅ケアなど、看護が機能する状況が多様化・複雑化するなかで、それらに的確に対応するためには、看護職にも専門的な知識や技術に加えて高度な判断力・応用能力及び調整能力が必要とされており、このような専門的看護能力を持つ人材の養成が求められている。

山梨県においても、高度専門医療をおこなう医療機関の整備にともない、各地域の基幹病院等において、特定の専門領域のスペシャリスト養成を望む声が高まっている。また、高齢化の進展に伴い地域における高齢者に対する看護の役割が増大していることから、市町村や福祉施設等からも優れた調整能力を有する看護職者の養成が求められている。

このため、看護の特定分野における卓越した看護実践能力と総合的な調整能力を有する高度専門職業人(専門看護師(CNS)など)を育成する。

※ 平成15年度に感染看護学、平成18年度には成人(慢性期)看護学、クリティカルケア看護学の専門分野が専門看護師教育課程として認可された。以後、日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程の認定申請を順次行う予定である。

②看護学教育者の育成

看護学の教育水準の向上には、専門領域に卓越した知識、技術を有し、かつ看護実践と看護学の発展に主体的、創造的に関わる資質をもった人材が不可欠である。

教育基盤としての十分な資質をもった看護学教育者の育成は、次世代の看護学の発展の資源となるもので大学院教育において実施されるものである。特に県内の地域医療の場に求められる看護職者の教育にあたっては、本県の文化、習慣、県民性など地域の特性を十分理解している教育者の育成が望まれている。

これらの要請に応えるために看護学教育者を育成する。

③看護学研究者の育成

看護実践に必要とされる知識や技術は日進月歩であり、科学的な理論に裏打ちされたこれらの知識や技術は、不断の研究の推進によって保証され、強化されうるものである。

また、看護理論の確立、理論体系の構築を見据えた研究活動を自立して推進しうる能力は大学院教育を通して養われるものであり、看護実践にかかわる研究や、地域の医療・健康問題と密着した研究などの成果は、将来にわたり継続的に県民の保健・医療・福祉に寄与するものである。

これらの要請に応えるために看護学における研究能力を有する看護職者を育成する。

<教育課程>

(1) 教育課程編成の考え方及び特色

1) 専門分野

本研究科は、看護実践の各専門領域のスペシャリストを育成するため、「地域看護学」、「老年看護学」、「慢性期看護学」、「急性期看護学」、「女性看護学」、「感染看護学」、「がん看護学」、「看護管理学」、「在宅看護学」の専門分野を置き、高度な実践能力と実践の場における研究能力を養うよう教育課程を編成する。

また、看護学の教育研究者を育成するため、「基礎看護学」の専門分野を再開講し、看護学の理論とその構築についての理解を深め、教育と研究の能力を養うように教育課程を編成する。

各専門分野の人材育成のねらいは、次に掲げるとおりである。

①基礎看護学

保健・医療・福祉の分野における、看護の本質の探求から経験知、実践知に焦点を当て、普遍的な知を追求するとともに、科学を拠り所として発展してきた看護技術のエビデンスを明らかにし、ケアとなりうる看護実践のための看護技術開発を行う。それによって、将来の看護学を先導できる実践能力と研究の推進能力を有し、看護の質向上に寄与できる人材の育成を目指す。

②地域看護学

地域で生活している人々の生活の質への向上を目指して、あらゆるライフステージおよびあらゆる健康レベルの個、家族、集団、地域を対象とした人々の保健ニーズを的確に捉え、その保健ニーズに基づいた看護活動の展開、さらには人々の保健ニーズを施策化に繋げ、公衆衛生の理念を踏まえたヘルスプロモーションの促進を可能とする、高度な地域看護実践者を育成する。

③老年看護学

高齢化の急速な伸展と家族介護力の低下などにより、高齢者の療養・生活の場が多様化している。地域で生活する健康な高齢者から、加齢や疾病による生活障害のために在宅や施設での療養生活を余儀なくされている要介護高齢者まで、本人とその家族をも含めた生活の質（QOL）の維持・向上に向けて支援ができる人材の育成を目指す。

④慢性期看護学

人口の高齢化が急速に進む中で、慢性病を持つ人々も急増している。慢性病が個人及び家族に及ぼす影響とそれに対する反応を理解し、生活の質（QOL）の向上という視点を重視した看護援助を実践することのできる人材を育成することを目指す。

⑤急性期看護学

臨床において医療技術の革新や高度化に伴い、重症患者や高齢者に対して手術療法をはじめとする高度な侵襲治療処置が施行される状況にある。短期間に侵襲的治療等を受け生命危機的な状況にある患者とその家族の健康問題を的確に判断し、生命維持・回復及び生活の質（QOL）の向上を目指した高度な臨床実践能力を有する人材の育成を目指す。

⑥女性看護学

リプロダクティブヘルス／ライツ、ヘルスプロモーションの視点から、周産期及びライフサイクル各期の女性及び家族の特性を理解し、ヘルスケアニーズに即した高度な援助実践ができる人材の育成を目指す。また、ライフサイクル各期の女性のケアに関する教育、相談、コーディネート、研究、倫理調整ができる人材の育成を目指す。

⑦感染看護学

新興・再興感染症の出現、院内感染の問題に対応し、広く地域及び施設の看護活動において、感染者及び易感染者のケア、感染管理並びに感染対策の推進に専門的に携わることのできる高度な看護実践者の育成を目指す。

⑧がん看護学

がん看護に関する最新で高度な知識・技術を用い、根拠に基づいたケア実践で、がんの予防、がん治療と継続ケア、リハビリテーションケア、緩和ケアが提供できる高度な能力を育成する。特に臨床において、がん看護のスペシャリストとしての役割がとれる人材の育成を目指す。

⑨看護管理学

保健・医療・福祉の変化に応じて看護サービスの質を保证するためのヘルスケアシステムを改革・創造できる高度な看護実践者の育成を目指す。また、職位に関わらずリーダーシップスキル、マネジメントスキルを発揮して、看護職者に求められている、組織の掲げる様々なレベルの目標を達成できる人材の育成を目指す。

⑩在宅看護学

在宅におけるあらゆるライフステージにある療養者や家族の現状とニーズを的確に捉え、人権を尊重し、人びとの生活の質（QOL）向上を目指した在宅における高度な看護実践力・ケアマネジメント能力・調整能力・経営管理能力・研究能力を高め、先を見越した在宅ケアシステムの構築に資する質の高い在宅看護実践者の育成を目指す。

2) 授業科目の編成

①各専門分野の授業科目

専門看護師養成課程では、原則として、特論 8 単位、演習 4 単位、実習 6 単位、課題研究 2 単位の計 20 単位により構成される。

基礎看護学分野、看護管理学分野、老年看護学分野、地域看護学分野では実習 6 単位を除き、特別研究が 8 単位となる。

②専門分野を越えて共通に履修する授業科目として、また専門看護師に求められる能力育成のための教育課程にも対応できるよう共通科目 10 科目（各 2 単位）を置く。

※ 当該専門分野以外の授業科目も選択できるようにし、学修の視野を広げる。

(2) 履修方法

入学時オリエンテーションと履修方法等についてのガイダンスを受けた後、各自指導教員の助言を受けて履修計画を立てる。具体的な履修方法は、以下のとおりである。

1) 履修計画について

- ①「開講予定科目及び専門分野別履修モデル」を参考に、自己の経験や能力並びに修士課程修了後の進路等を考慮して、自らの目標が達成できるように履修計画を立てる。
- ②原則として1年次に、選択する専門分野の特論、演習及び共通科目を履修し、2年次に実習、続いて特別研究を履修する。

2) 修了に必要な履修科目及び履修単位

共通科目から必修科目2単位、選択する専門分野の科目から20単位、共通科目または選択する専門分野以外の科目から8単位以上とし、修了には30単位以上を修得するものとする。各専門分野の演習、実習の科目を除き、開講されている全ての専門科目は選択履修できる。

3) 専門看護師教育課程としての必要な科目

将来的に専門看護師(CNS)の資格取得を希望する場合は、認定に必要な科目と単位を修得する。各専門分野(基礎看護学、看護管理学、地域看護学、老年看護学を除く)の特論、演習、実習の計18単位はそれに対応するものである。共通科目からは、看護学研究法(必修)のほか、理論看護学、看護政策学、看護倫理学、看護継続教育論のうち3科目以上を選択し、あわせて8単位以上となるよう履修する必要がある。

4) 研究指導について

研究指導は、各自の指導教員による指導を主とするが、研究内容によって必要な複数の教員の指導を受けるようにする。

(3) 修了要件

1) 修了要件

本学研究科の修了要件は、本学研究科に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で修士論文、又は課題研究の審査と最終試験に合格することとする。

ただし在学期間については、特に優れた業績を上げた者は、本学研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

(修了単位の内訳)

- (1) 共通科目から必修科目2単位
- (2) 選択する専門分野の科目から20単位
- (3) 共通科目または選択する専門分野以外の科目から8単位以上
- (4) 合計30単位以上

2) 学位の授与

本学研究科の課程を修了した者に与える学位は、修士(看護学)とする。

(4) 入学前の既修得単位等の認定

1) 入学前の既修得単位等の認定：学則第27条

(入学前の既修得単位等の認定)

第27条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が大学院に入学する前に他の大学院又は外国の学校において修得した単位を、大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

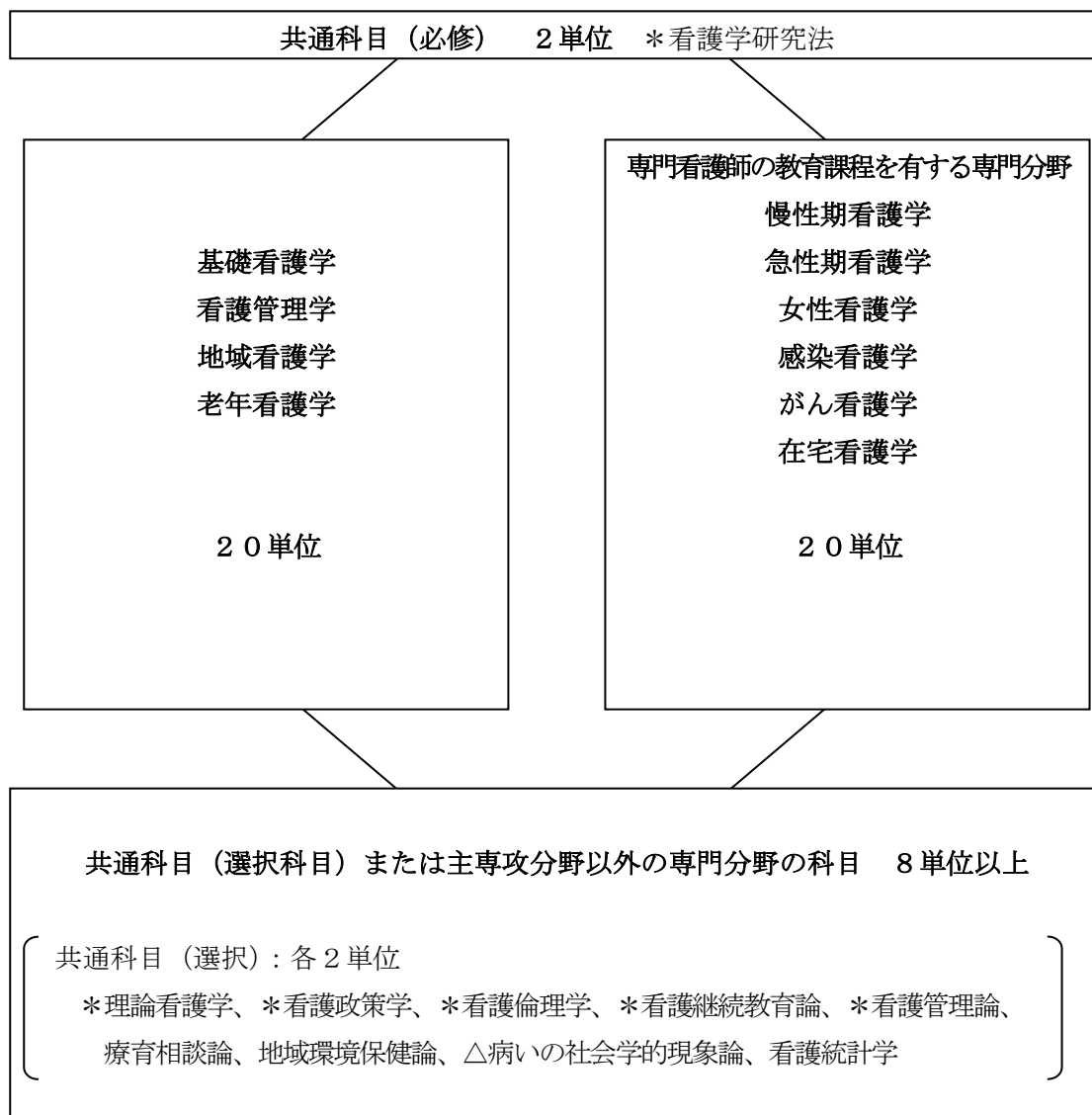
2 前項の規定により、修得したものとみなす単位数は、第13条に規定する再入学又は転入学の場合を除き10単位を超えないものとする。

2) 入学前の既修得単位の認定の手続

- ①学生は、入学前の既修得単位のうち、認定を希望する科目及び単位を申請する。
- ②申請には、既修得単位等の認定申請書(様式第2号)を用い、他大学等の単位修得証明書(成績証明書)及び認定を希望する科目の授業概要を添えて所定の期日までに学務課へ提出する。
- ③大学等の単位修得証明書(成績証明書)は、該当する大学等の発行するものとし、認定を希望する科目の概要は、シラバス等のコピーを用いる。
- ④申請は各専門分野で検討し教授会での審査を受ける。
- ⑤認定の結果は、既修得単位認定書をもって学生に通知する。
- ⑥その他の留意事項
 - ・学生は、認定が決定するまでは履修申請を必ず行い授業に出席する。
 - ・学生は、既修得単位等の認定の申請に際して、授業概要等について、各指導教員と相談する。
 - ・申請は、1年次の入学当初に一括して行う。

(5) 教育課程の内容

1) 教育課程の構造図



*専門看護師の認定に必要な共通科目、△1年次開講科目

②開講予定科目及び専門分野履修モデル

授 業 科 目		配 当		単位数		専門分野別履修モデル(修得単位数)											履修方法及び修了要件
		年次		必修	選択	地域看護学	在宅看護学	老年看護学	慢性期看護学	急性期看護学	女性看護学	感染看護学	がん看護学	看護管理学	基礎看護学		
		2 年 課程	3 年 課程														
共通科目	看護学研究法	1	1	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	理論看護学	1・2	1・2		2	2			2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護政策学	1・2	1・2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護倫理学	1・2	1・2		2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護継続教育論	1・2	1・2		2				2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護管理論	1・2	1・2		2		2					2	2	2		2	2
	療育相談論	1・2	1・2		2												
	地域環境保健論	1・2	1・2		2	2		2					2				
	病いの社会的現象論	1	1		2												
看護統計学	1	1		2	2		2						2	2		2	
地域看護学	地域看護学特論Ⅰ（公衆衛生看護学原論）	1	1		2	2											
	地域看護学特論Ⅱ（地域アセスメント基礎論）	1	1		2	2											
	地域看護学特論Ⅲ（地域活動展開論）	1	1		2	2											
	地域看護学特論Ⅳ（地域政策看護論）	1	1		2	2			2								
	地域看護学演習	1	2		4	4											
	地域看護学特別研究	2	3		8	8											
在宅看護学	在宅看護学特論Ⅰ（在宅看護システム論）	1	1		2		2										
	在宅看護学特論Ⅱ	1	1		2		2										
	在宅看護学特論Ⅲ	1	1		2		2										
	在宅看護学特論Ⅳ（在宅看護の質の保証）	1	1		2		2										
	在宅看護学演習	1	2		4		4										
	在宅看護学実習	2	2		6		6										
在宅看護学課題研究	2	3		2		2											
老年看護学	老年看護学特論Ⅰ（高齢者アセスメント・ケアマネジメント論）	1	1		2			2									
	老年看護学特論Ⅱ（高齢者サポートシステム論）	1	1		2			2									
	老年看護学特論Ⅲ（認知症ケア論）	1	1		2			2									
	老年看護学特論Ⅳ（終末期ケア論）	1	1		2			2									
	老年看護学演習	1	2		4			4									
	老年看護学特別研究	2	3		8			8									
慢性期看護学	慢性期看護学特論Ⅰ（慢性病者行動論）	1	1		2				2								
	慢性期看護学特論Ⅱ（慢性病医療福祉制度論）	1	1		2				2								
	慢性期看護学特論Ⅲ（慢性病者アセスメント論）	1	1		2				2								
	慢性期看護学特論Ⅳ（慢性病者療養生活援助論）	1	1		2				2								
	慢性期看護学演習	1	2		4			4									
	慢性期看護学実習	1・2	2		6			6									
慢性期看護学課題研究	2	3		2				2									
急性期看護学	急性期看護学特論Ⅰ（急性期看護対象論）	1	1		2					2							
	急性期看護学特論Ⅱ（急性期精神看護論）	1	1		2					2							
	急性期看護学特論Ⅲ（急性期病態治療学）	1	1		2					2							
	急性期看護学特論Ⅳ（急性期身体治療学）	1	1		2					2							
	急性期看護学演習	1	2		4					4							
	急性期看護学実習	2	2		6					6							
急性期看護学課題研究	2	3		2						2							
女性看護学	女性看護学特論Ⅰ（対象論）	1	1		2						2						
	女性看護学特論Ⅱ（周産期援助方法論）	1	1		2						2						
	女性看護学特論Ⅲ（生涯援助方法論）	1	1		2						2						
	女性看護学特論Ⅳ（生涯援助実践論）	1	1		2						2						
	女性看護学演習（生涯援助実践論演習）	1	2		4						4						
	女性看護学実習	2	2		6						6						
	女性看護学課題研究	2	3		2												
感染看護学	感染看護学特論Ⅰ（感染基礎）	1	1		2		2			2		2					
	感染看護学特論Ⅱ（応用無菌法）	1	1		2						2	2					
	感染看護学特論Ⅲ（感染症看護）	1	1		2						2	2					
	感染看護学特論Ⅳ（感染防止法）	1	1		2						2	2					
	感染看護学演習	1	2		4						4	4					
	感染看護学実習	2	2		6						6	6					
	感染看護学課題研究	2	3		2						2	2					
がん看護学	がん看護学特論Ⅰ	1	1		2								2				
	がん看護学特論Ⅱ（がん看護に関する理論）	1	1		2								2				
	がん看護学特論Ⅲ（がん患者看護援助論）	1	1		2								2				
	がん看護学特論Ⅳ（がんリハビリテーション看護）	1	1		2								2				
	がん看護学演習	1	2		4								4				
	がん看護学実習	1・2	2		6								6				
	がん看護学課題研究	2	3		2								2				
看護管理学	看護管理学特論Ⅰ（概念、組織論、組織行動論）	1	1		2									2			
	看護管理学特論Ⅱ（医療福祉制度、医療経済、看護制度、政策）	1	1		2									2			
	看護管理学特論Ⅲ（人的資源活用論、医療安全、情報管理）	1	1		2									2			
	看護管理学特論Ⅳ（看護サービス提供論、専門職論、継続教育）	1	1		2									2			
	看護管理学演習	1・2	2		4									4			
	看護管理学特別研究	2	3		8									8			
基礎看護学	看護技術学特論Ⅰ（看護ケア論）	1	1		2											2	
	看護技術学特論Ⅱ（健康と生活援助論）	1	1		2											2	
	看護技術学特論Ⅲ（看護アセスメント論）	1	1		2											2	
	看護技術学特論Ⅳ（看護技術開発論）	1	1		2											2	
	看護技術学演習	1	2		4											4	
	看護技術学特別研究	2	3		8											8	
計				2	218	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

③授業科目と担当教員

		授業科目	配当		単位数		担当教員
			年次		必修	選択	
			2年課程	長期履修			
共通科目	看護学研究法	1	1	2		石田貞代教授、長佳代非常勤講師	
	理論看護学	1・2	1・2	2		高橋照子非常勤講師	
	看護政策学	1・2	1・2	2		大室律子非常勤講師、佐野博美非常勤講師	
	看護倫理学	1・2	1・2	2		鈴木英子非常勤講師、松浦利江子非常勤講師	
	看護継続教育論	1・2	1・2	2		吉田文子准教授	
	看護管理論	1・2	1・2	2		田中彰子教授	
	療育相談論	1・2	1・2	2		文珠紀久野教授	
	地域環境保健論	1・2	1・2	2		小田切陽一教授	
	病いの社会学的現象論	1	1	2		百々雅子准教授	
	看護統計学	1	1	2		本間隆之講師	
地域看護学	地域看護学特論Ⅰ（公衆衛生看護学原論）	1	1	2		小田切陽一教授、村松照美教授	
	地域看護学特論Ⅱ（地域アセスメント基礎論）	1	1	2		小田切陽一教授、村松照美教授	
	地域看護学特論Ⅲ（地域活動展開論）	1	1	2		村松照美教授、望月宗一郎講師	
	地域看護学特論Ⅳ（地域政策看護論）	1	1	2		村松照美教授、小田切陽一教授	
	地域看護学演習	1	2	4		村松照美教授、望月宗一郎講師	
	地域看護学特別研究	2	3	8		小田切陽一教授、村松照美教授	
	在宅看護学	在宅看護学特論Ⅰ（在宅看護システム論）	1	1	2		佐藤悦子教授、泉宗美恵講師
在宅看護学特論Ⅱ		1	1	2		佐藤悦子教授、依田純子講師	
在宅看護学特論Ⅲ		1	1	2		佐藤悦子教授	
在宅看護学特論Ⅳ（在宅看護の質の保証）		1	1	2		佐藤悦子教授、内田恵美子非常勤講師	
在宅看護学演習		1	2	4		佐藤悦子教授、泉宗美恵講師、依田純子講師	
在宅看護学実習		2	2	6		佐藤悦子教授、泉宗美恵講師、依田純子講師	
在宅看護学課題研究		2	3	2		佐藤悦子教授	
老年看護学		老年看護学特論Ⅰ（高齢者アセスメント・ケアマネジメント論）	1	1	2		流石ゆり子教授、渡邊裕子准教授、小山尚美助教
	老年看護学特論Ⅱ（高齢者サポートシステム論）	1	1	2		流石ゆり子教授	
	老年看護学特論Ⅲ（認知症ケア論）	1	1	2		流石ゆり子教授	
	老年看護学特論Ⅳ（終末期ケア論）	1	1	2		流石ゆり子教授	
	老年看護学演習	1	2	4		流石ゆり子教授、渡邊裕子准教授、小山尚美助教	
	老年看護学特別研究	2	3	8		流石ゆり子教授	
慢性期看護学	慢性期看護学特論Ⅰ（慢性病者行動論）	1	1	2		松下由美子教授、旗持知恵子非常勤講師	
	慢性期看護学特論Ⅱ（慢性病医療福祉制度論）	1	1	2		松下由美子教授	
	慢性期看護学特論Ⅲ（慢性病者アセスメント論）	1	1	2		松下由美子教授、旗持知恵子非常勤講師	
	慢性期看護学特論Ⅳ（慢性病者療養生活援助論）	1	1	2		松下由美子教授	
	慢性期看護学演習	1	2	4		松下由美子教授、旗持知恵子非常勤講師	
	慢性期看護学実習	1・2	2	6		松下由美子教授	
	慢性期看護学課題研究	2	3	2		松下由美子教授	
専門	急性期看護学特論Ⅰ（急性期看護対象論）	1	1	2		遠藤みどり教授	
	急性期看護学特論Ⅱ（急性期精神看護論）	1	1	2		遠藤みどり教授	
	急性期看護学特論Ⅲ（急性期病態治療学）	1	1	2		林正健二教授	
	急性期看護学特論Ⅳ（急性期身体治療学）	1	1	2		遠藤みどり教授、林正健二教授	
	急性期看護学演習	1	2	4		遠藤みどり教授、渡辺かづみ准教授	
	急性期看護学実習	2	2	6		遠藤みどり教授、渡辺かづみ准教授	
	急性期看護学課題研究	2	3	2		遠藤みどり教授、林正健二教授、渡辺かづみ准教授	
	分野	女性看護学特論Ⅰ（対象論）	1	1	2		石田貞代教授
女性看護学特論Ⅱ（周産期援助方法論）		1	1	2		伏見正江教授、滝沢美津子准教授、廣瀬紀子非常勤講師	
女性看護学特論Ⅲ（生涯援助方法論）		1	1	2		石田貞代教授、伏見正江教授	
女性看護学特論Ⅳ（生涯援助実践論）		1	1	2		石田貞代教授、伏見正江教授	
女性看護学演習（生涯援助実践論演習）		1	2	4		石田貞代教授、伏見正江教授、坂上玲子非常勤講師、廣瀬紀子非常勤講師	
女性看護学実習		2	2	6		石田貞代教授、伏見正江教授	
女性看護学課題研究		2	3	2		石田貞代教授	
感染看護学	感染看護学特論Ⅰ（感染基礎）	1	1	2		田辺文憲非常勤講師	
	感染看護学特論Ⅱ（応用無菌法）	1	1	2		林滋子特任教授、田辺文憲非常勤講師	
	感染看護学特論Ⅲ（感染症看護）	1	1	2		林滋子特任教授	
	感染看護学特論Ⅳ（感染防止法）	1	1	2		林滋子特任教授、城戸口親史講師	
	感染看護学演習	1	2	4		林滋子特任教授、田辺文憲非常勤講師、城戸口親史講師	
	感染看護学実習	2	2	6		林滋子特任教授、城戸口親史講師、中島真寿美特任講師	
	感染看護学課題研究	2	3	2		林滋子特任教授	
	がん看護学	がん看護学特論Ⅰ	1	1	2		林正健二教授
がん看護学特論Ⅱ（がん看護に関する理論）		1	1	2		梶原睦子教授、遠藤みどり教授	
がん看護学特論Ⅲ（がん患者看護援助論）		1	1	2		梶原睦子教授、遠藤みどり教授、前沢美代子特任准教授	
がん看護学特論Ⅳ（がんリハビリテーション看護）		1	1	2		梶原睦子教授、松下由美子教授	
がん看護学演習		1	2	4		梶原睦子教授、松下由美子教授、前沢美代子特任准教授、小林美雪助教	
がん看護学実習		1・2	2	6		梶原睦子教授、前沢美代子特任准教授	
がん看護学課題研究		2	3	2		梶原睦子教授	
看護管理学		看護管理学特論Ⅰ（概念、組織論、組織行動論）	1	1	2		田中彰子教授
	看護管理学特論Ⅱ（医療福祉制度、医療経済、看護制度、政策）	1	1	2		田中彰子教授	
	看護管理学特論Ⅲ（人的資源活用論、医療安全、情報管理）	1	1	2		田中彰子教授	
	看護管理学特論Ⅳ（看護サービス提供論、専門職論、継続教育）	1	1	2		田中彰子教授	
	看護管理学演習	1・2	2	4		田中彰子教授、真下綾子講師	
	看護管理学特別研究	2	3	8		田中彰子教授、松下由美子教授、真下綾子講師	
	基礎看護学	看護技術学特論Ⅰ（看護ケア論）	1	1	2		小林たつ子教授、吉澤千登勢講師
看護技術学特論Ⅱ（健康と生活援助論）		1	1	2		小林たつ子教授、小川典子非常勤講師	
看護技術学特論Ⅲ（看護アセスメント論）		1	1	2		小林たつ子教授、城生弘美非常勤講師	
看護技術学特論Ⅳ（看護技術開発論）		1	1	2		小林たつ子教授	
看護技術学演習		1	2	4		小林たつ子教授	
看護技術学特別研究		2	3	8		小林たつ子教授	
計				2	218		

3) 大学院生の動向

①学生数

区分 入学年度	入 学	辞 退	異 動 状 況		
			退 学	休 学	留 年
1 年次	1 1	0	0	0	0
2 年次	1 1	0	1	1	3

※ 休学者は現数

②奨学金貸与状況

区分 入学年度	日 本 学 生 支 援 機 構		山 梨 県 修学資金	計
	第 一 種	第 二 種		
22 年度	0	0	1	1

③入試状況

年度	区分	募集 定員	項目	県内			県外			全体			倍率		
				女	男	計	女	男	計	女	男	計	出願	受験	合格
22	社会人 特別選抜	1 0	出願者	11	1	12	2	1	3	13	2	15	1. 50	1. 40	1. 20
			受験者	11	1	12	1	1	2	12	2	14			
			合格者	10	1	11	0	1	1	10	2	12			
			入学者	9	1	10	0	1	1	9	2	11			
	一般選抜		出願者	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			受験者	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			入学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	合 計	1 0	出願者	11	1	12	2	1	3	13	2	15	1. 50	1. 40	1. 20
			受験者	11	1	12	1	1	2	12	2	14			
			合格者	10	1	11	0	1	1	10	2	12			
			入学者	9	1	10	0	1	1	9	2	11			

④健康管理状況

健康診断

	対象者	受診者	受診率	要精検者	要精検者
22 年度	27	13	48,1%	1	3,7%

ツベルクリン検査

		受診者	陽性		陰性	
22 年度	1 回目	9	6	66,7%	3	33,3%
	2 回目	7	4	57,1%	3	42,9%

⑤科目等履修生履修状況

年 度	人数	科目名
22 年度	9	理論看護学(5)、看護政策学(3)、看護倫理学(4)、看護継続教育論(2)、看護管理論(1)、看護管理学特論Ⅲ(2)、看護管理学特論Ⅳ(2)、看護技術学特論Ⅰ(1)、在宅看護学特論Ⅰ(1)

⑥CNS（専門看護師）合格状況

年 度	分 野	合格者数
22 年度	急性・重症患者看護	1
	慢性疾患看護	2

⑦修士論文審査

【地域看護学】

高齢者の自立と過去的生活活動に関する生態学的研究 橋本満知子

K 市 A 地区における要支援高齢者の社会関連性に影響する要因の検討
ー社会関連性指標(ISI)を用いてー 佐野 麻衣

認知症高齢者を在宅で介護する主介護者の介護体験の中での孤独感
ー子の配偶者(嫁)の立場にある介護者のインタビュー調査からー 松土はつみ

【看護管理学】

A 県内の病院における退院調整の取り組みと看護の役割
ー退院調整部門の設置の有無による比較からの考察ー 角田 千春

【急性期看護学】

ICU 看護師の人工呼吸器を装着した患者に対する
気管吸引のアセスメントの実態 沼倉 聡子

肺切除術を受けた患者の術後疼痛体験 梶原 絢子

【感染看護学】

新型インフルエンザ流行発生時の感染者のケアに直面した看護師の思い 宮下 茂美

4) 共同研究

年度	研究テーマ	共同研究代表
22	①認定看護師のキャリアプラトー現象とその影響要因に関する研究	教授 松下 由美子 他

8. 看護実践開発研究センター

多くの皆様のお力により、平成22年4月「山梨県立大学看護実践開発研究センター」が誕生しました。誕生の願いは、県内の看護実践、教育、管理、研究活動がいっそう活発となり、充実し、向上することにあります。そのため、大学の保有する知的・物的・物理的資源を地域に広く開放し、保健医療福祉の実践現場の看護職をサポートすることを目指しています。そうすることによって、大学も新たなパワーを得て、良い循環が生まれることを期待しています。運営規定第2条には「センターは全教員が構成員となり、看護職者がさらなる専門知識や技術の習得、また研究活動が出来るための専門職支援を行うことを目的とする。」と謳われております。長い名称なので、日頃は「実践センター」と呼び、少しずつ親しみが出てきました。

わが国は今、政治、社会、経済、国際…と、激動の大きなうねりの中にあります。高齢化の進展とともに、ケアを受ける対象は増える一方であり、人々の求めるニーズも高く、複雑多様なものとなってきました。急性期病院では、在院日数がますます短縮し、看護職のより専門的な知識・技術が求められております。また、医療の場と療養の場とのより緊密な連携を求められ、在宅ケアのいっそう拡充が期待されているところです。

初年度の運営は、①認定看護師教育課程 ②看護継続教育の支援 ③看護実践の開発と研究支援 ④高度専門職業人の支援 ⑤情報発信 というセンターの機能に合わせ、5つのグループにより実施しました。9月17日、開設記念式典・記念講演会を開催しました。県内の医療・福祉関係者など200人余りが出席。講演会は、勝原裕美子先生（聖隷浜松病院副院長兼看護部長）による「看護職の専門性と役割の拡大に向けたキャリア開発支援」というテーマで、センターの果たす役割の示唆をいただきました。

質の良い看護サービスを提供するためには、看護職は、あらゆる場において、自らの専門性を高め、最新の知識・技術でケアすることが求められます。“レベルアップ、スキルアップ、キャリアアップ、ブラッシュアップ”の「フォーアップ！」を合言葉に、進んでゆきたいと思います。今年度活動の詳細は「2010年度看護実践開発研究センター報告書」に纏めました。次年度は、今年度の反省を踏まえ、より効果的な運営を考えてゆきたいと思います。

看護実践開発研究センター長 田中 彰子

山梨県立大学 看護実践開発研究センターの目的

山梨県立大学看護実践開発研究センターは、保健医療福祉の看護の質的向上を目指して、実践現場に携わる看護職のために開設しました。近年少子高齢社会の加速により、ケアを受ける対象は急増し、人々の求めるニーズも複雑多様となってきました。山梨県内においても、急性期医療はますます施設内の看護のレベルアップが求められ、在宅や福祉施設等におけるケアへの期待が高まっています。質の良い看護サービスを提供するために、看護職は、あらゆる場において、自らの専門性を高め、最新の知識・技術でケアすることが求められています。

本センターの設立は、大学の保有する人的・物的環境を広く地域に開放し、県内を中心とした看護職者がさらなる看護実践の質的向上を目指し、専門知識や技術の習得や研究活動を行うために、専門職支援を行うことを目的としました。具体的には、認定看護師の育成支援、看護継続教育の支援、看護実践の開発と研究支援、高度専門職業人の支援、情報発信の5つの機能を備えました。

皆様からお寄せいただくご意見を基に、学習者の利便性、効率性、成果向上を考え運営してまいります。

看護実践開発研究センターの機能図

Nursing Development & Research

看護実践の開発と研究支援

- 委託調査
- 共同研究
- 研究指導
- データの蓄積

Education & Support for Certified Nurses

認定看護師の育成・支援

- 資格取得に向けての支援
- 資格取得後の支援

Continuing Nursing Education

看護継続教育の支援

- 院内教育(施設内教育)プログラムの開発・支援
- 外部からの依頼による講師の派遣
- 技術指導
- 技術、練習の場の提供
- キャリアアップのための相談
- 現任教育の指導者育成

Support for Nurse Specialists

高度専門職業人の支援

- 資格取得に向けての支援
(CNS,認定看護管理者)
- 資格取得後の支援
(CNS,認定看護管理者)

Information

情報発信

- センター活動の情報
- キャリアアップのための情報

山梨県立大学看護実践開発研究センターの機能